

# DISCLOSURE

## 2021

佐賀西信用組合の現況

## ごあいさつ

皆さまには、日頃より格別のご愛顧お引き立てを賜わり、心から御礼申し上げます。

このたび、当組合の現況（令和2年度第68期）をまとめましたので、ご理解を深めていただくための資料として、ご高覧賜わりたいと存じます。

当組合は、地域の皆さまに本当にお役に立てる金融機関をめざし、これまで以上に経営の健全性と基盤強化に努めてまいりますので、一層のご支援とご指導のほど、心からお願い申し上げます。



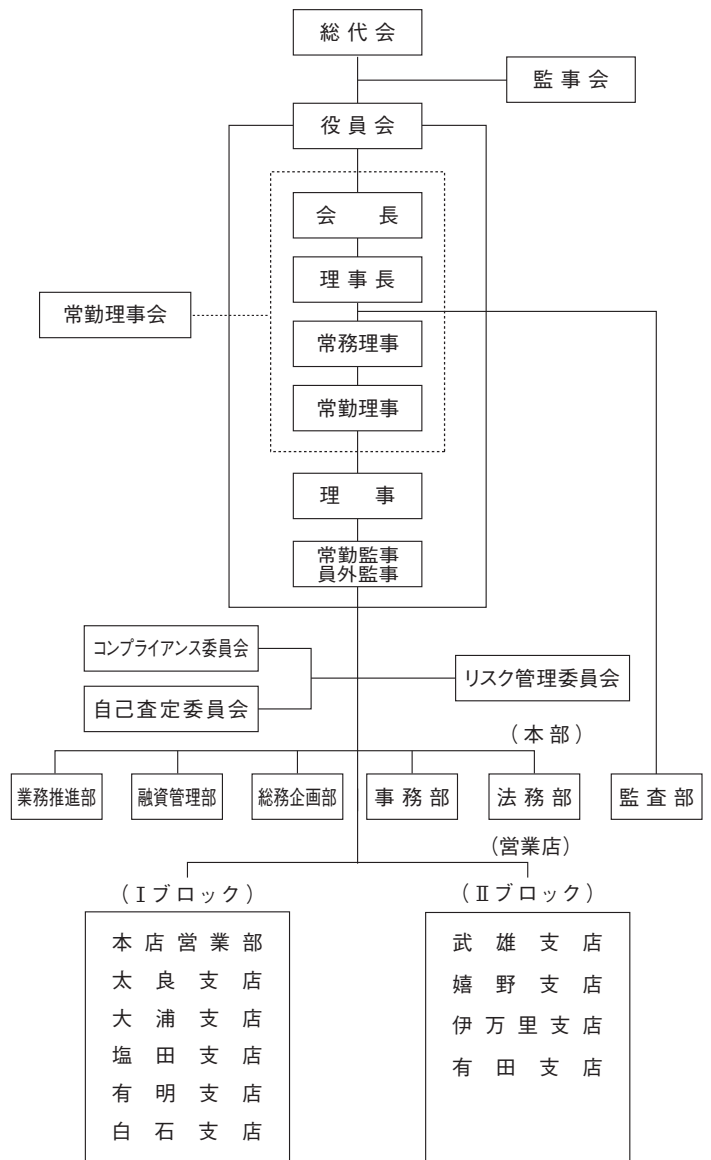
令和3年7月

佐賀西信用組合  
理事長 井上 英夫

## 当組合のあゆみ（沿革）

- 昭和28年12月／ 藤津信用組合として藤津郡鹿島町（現鹿島市）で業務開始、太良及び塩田支店を順次開設
- 昭和31年7月／ 国民生活金融公庫（現株日本政策金融公庫）代理店として業務開始
- 昭和43年11月／ 本店新築（鹿島市大字高津原4369番地1）
- 昭和50年10月／ 藤津信用組合と有明信用組合が合併し、佐賀西信用組合と改称、新理事長に田中 豊（藤津信組理事長）が就任
- 昭和51年11月／ 有田支店開設 12店舗となる
- 昭和56年9月／ 自営のオンライン稼働
- 昭和57年5月／ 田中 豊理事長退任、新理事長に高森梧桐専務が就任
- 昭和60年2月／ 現金自動取引機（ATM）設置（12ヶ店）
- 平成7年11月／ 電算機の更新 日本ユニシス(株)製 A14-D11システム
- 平成9年5月／ 塩田支店新築
- 平成10年12月／ 有明支店新築移転
- 平成11年6月／ 高森梧桐理事長退任し会長へ、新理事長に一ノ瀬哲夫が就任
- 平成12年6月／ 高森梧桐会長は、代表理事会会長を退任し非常勤理事会会長に就任
- 平成13年6月／ 白川秀樹監事が、員外監事に就任
- 平成14年7月／ 自営のオンラインからSKC（全国信組共同センターシステム）に加盟し、共同システムに移行
- 平成15年11月／ 創立50周年記念行事を開催
- 平成16年6月／ 浜支店を浜出張所に変更
- 平成17年4月／ 「監査法人トーマツ（現有限責任監査法人トーマツ）」および「常勤監事」を選任
- 平成17年12月／ 大町支店を大町出張所に変更
- 平成19年9月／ 佐賀県内の手形交換所が統合
- 平成20年8月／ 浜出張所を無人機械化店舗（店外ATM）に変更、大町出張所を武雄支店に店舗統廃合
- 平成22年6月／ 浜無人機械化店舗（店外ATM）閉鎖
- 平成22年7月／ 太良支店新築
- 平成22年7月／ 全店オンライン端末機、現金自動取引機（ATM）を新機種に更改  
～8月
- 平成22年8月／ 嬉野支店新築
- 平成23年6月／ 一ノ瀬哲夫理事長退任、新理事長に栢森久専務理事が就任
- 平成24年1月／ 個人向け国債の募集取扱い開始
- 平成24年12月／ 経営革新等支援機関の認定を受ける
- 平成25年2月／ 「でんさいネット」サービスを開始
- 平成25年12月／ 創立60周年祝賀パーティーを開催
- 平成28年5月／ 伊万里支店新築移転
- 平成30年7月／ 全店オンライン端末機、現金自動取引機（ATM）を新機種に更改  
～8月
- 令和3年6月／ 栢森久理事長退任し会長へ、新理事長に井上英夫専務理事が就任

## 事業の組織



## 役員一覧（理事および監事の氏名・役職名）令和3年6月30日 現在

会長／栢森 久      理事長／井上 英夫      常務理事／淵上 達也  
 常勤理事／大崎 正俊      理事／矢野 善紀(※)      理事／土井 敏行(※)  
 理事／愛野 時興(※)      理事／森 孝一(※)      理事／北村 和博(※)  
 理事／富永 一水  
 常勤監事／井手 誠      員外監事／白川 秀樹(※)  
(公認会計士)

◎当組合は、職員出身者以外の理事（※印）の経営参画により、ガバナンスの向上や組合員の意見の多面的な反映に努めています。

## 会計監査人の名称

有限責任監査法人トーマツ

## 事業方針

### ■経営理念

- ・地域経済の発展に寄与する金融機関を目指し、健全経営に徹する。
- ・地域内の中小企業や勤労者の資金の円滑化に寄与し、地域社会の発展に貢献する。

### ■経営方針

#### 1. 経営基盤の拡充・強化

当組合が地域社会および地域内の顧客のニーズに応え、地域に欠かせない金融機関としての確固たる地位を築くため、特性を遺憾なく発揮し、経営基盤をより一層拡充・強化する。

#### 2. 健全性の確保と経営体質の強化

健全経営に徹するため、リスク管理を強化し、経営の健全性を確保する。また、経営体質の強化を目指し、経営体制全般の再構築を図り、合理化・効率化に努める。

#### 3. 人材の育成

地域社会および取引先の多様なニーズに適切に応えるため、優秀な人材を確保し、職員の資質の向上を図る。

## 令和2年度 経営環境・事業概要

### (事業の方針)

令和2年度も「経営基盤の拡充・強化」、「健全性の確保と経営体質の強化」及び「人材の育成」の3つの経営方針の下、①地域のお客様との「共存共栄」、②コンプライアンスの徹底とリスク管理の強化による経営の健全性と合理化・改善、③研修会への派遣や勉強会の充実による人材の育成に努め、役職員一丸となり業務運営に努めました。

### (金融経済環境)

令和2年度の国内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるものの、政府の経済対策の効果により、一部で持ち直しの動きが見られました。しかし、経済の水準はコロナ前を下回った状態に止まっており、経済の回復は道半ばの状態にあります。

一方、中小企業・小規模事業者は、感染拡大や緊急事態宣言の再発出で、飲食業や宿泊業をはじめ幅広い業種において引き続き厳しい状況にあり、業況改善に向けた動きは鈍く、今後の感染拡大を懸念する声が強まっております。

金融業界につきましては、大規模な金融緩和政策の継続による低金利の長期化や人口減少・少子高齢化の進行による地域経済の縮小などの構造的要因に加え、感染拡大による取引先企業の業績悪化に伴う与信費用の増加等が懸念されており、収益環境は引き続き厳しい状況が続いています。

### (業績)

このような状況の中、当期末の預金・積金残高につきましては、個人預金、法人預金、公金預金がともに増加し、前期比7,023百万円増の71,037百万円となりました。

貸出金残高につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けられたお客様への資金繰り支援に努めた結果、同比4,067百万円増の35,356百万円となりました。

なお、預金・積金、貸出金ともに期末残高では、過去最高となりました。

損益面につきましては、経常収益は、有価証券利息配当金は増加したものの、国債等債券売却益、貸出金利息の減少により、同比46百万円減少し1,018百万円となりました。経常費用は、貸倒引当金繰入額、その他役務取引等費用の減少により、同比35百万円減少し949百万円となりました。

この結果、経常利益は69百万円（同比11百万円減）、当期純利益は50百万円（同比1百万円減）となり、減収減益となりました。

### (事業の展望及び課題)

令和3年度も、金融緩和政策の継続により、利鞘の更なる縮小が続くと見込まれ、収益環境は、一段と厳しい状況が続くと予想されます。

このような中で、信用組合は、顧客一人ひとりに寄り添ったきめ細やかなサービスを提供し、地域経済の活性化や地域社会に貢献していくことが求められます。

当組合においては、地域とともに生きる協同組織の金融機関として、苦境に陥っている中小企業・小規模事業者及び生活者に対し、金融仲介機能を十分に発揮するとともに、より一層の金融サービスの向上に取組んでいく所存であります。



## 総代会について

### ■総代会の仕組みと機能

信用組合は、中小企業等協同組合法第55条に基づき、組合の最高意思決定機関として組合員全員で構成する総会を設けることとなっております。また、同法により組合員数が200人を超える場合は、定款の定めにより総会に代わる総代会を設けることができるものとなっております。当組合では、定款の定めにより総会に代わる総代会を設けております。総代会の議決事項には、出席者の議決権の過半数で決する普通議決と、総代総数の半数以上が出席しその議決権の3分の2以上の多数をもって議決する特別議決があります。主な普通議決事項には、理事・監事の選任及び解任、毎事業年度の収支予算及び事業計画の設定又は変更、役員の報酬、事業の譲受け、会計監査人の選任及び解任などがあり、主な特別議決事項には、定款の変更、組合の解散、合併、事業の譲渡、組合員の除名などがあります。

### ■総代の役割

総代会は、組合員のうちから選挙により選出された総代でこれを組織します。総代は、組合員の地域別の代表として、組合の最高意思の決定に参加することになります。現在、当組合の総代定数は100人以上130人以内、任期は3年となっております。

### ■総代の選出方法

総代の選出は、当組合の定款並びに総代選挙規程に基づいて行われております。選挙期日は理事長が決定し、選挙者名簿を確定します。選挙区ごとの総代定数等は理事会において定め、総代に立候補する方はその旨を理事長に届け出ます。総代候補者がその選挙区における総代の定数を超える場合は、組合員は選挙期日に投票所において所定の投票用紙をもって投票し、当選者を決定します。

### ■総代会の議決事項等の議事概要

第68期通常総代会が、令和3年6月25日午後2時より、割烹清川で開催されました。当日は総代113名のうち、出席26名、書面決議86名のもと、下記の報告事項および議案事項が付議され、原案通りに全議案が可決・承認されました。

報告事項(1) 第68期(令和2年4月1日から令和3年3月31日)事業報告、貸借対照表、損益計算書報告の件(会計監査人及び監事の監査結果報告)

報告事項(2) 店舗の移転統合について

報告事項(3) 出資証券の不発行(ペーパーレス化)について

#### 議案事項

第1号議案	第68期 剰余金処分案承認の件
第2号議案	第69期 事業計画及び収支予算案承認の件
第3号議案	任期満了に伴う役員改選の件
第4号議案	退任役員に対する退職慰労金贈呈の件

### ■総代会の選挙区・定数・総代数・総代氏名・属性別構成比

総代総数 113名(令和3年6月30日現在)

## 経営内容

### 反社会的勢力に対する取組み

佐賀西信用組合は、反社会的勢力との関係を遮断し被害を防止するため、以下のとおり基本方針を定め遵守します。

- (1) 反社会的勢力による不当要求に対して、理事長以下組織全体として対応するとともに、対応する職員の安全を確保するための体制を整備します。
- (2) 反社会的勢力による不当要求に備えて、平素から警察、暴力追放運動推進センター、弁護士等の外部専門機関と緊密な連携を構築していきます。
- (3) 公共の信頼を維持し、業務の適切性および健全性を確保するため、反社会的勢力との取引を含めた関係を遮断し、不当要求に対しては断固として拒絶します。
- (4) 反社会的勢力による不当要求に対しては、あらゆる民事上の法的対抗手段を講ずるとともに、被害が生じた場合には刑事事件として被害届の提出または告訴・告発を行います。
- (5) いかなる理由があっても、事案を隠蔽するための反社会的勢力との裏取引、資金提供等は絶対に行いません。

当組合は、各種預金規定、信用組合取引約定書等に「暴力団排除条項」を盛り込み、警察、暴追センター、弁護士等と連携して反社会的勢力との関係遮断のための取組みを行っております。

各預金申込書等に「反社会的勢力ではないことの表明、確約に関する同意」を頂いておりますので、お客様にはこの取組みの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い致します。

なお、依然として増加傾向にある、振り込み詐欺をはじめとする特殊詐欺の撲滅に向けて、窓口等で特に高齢のお客様に対しては、高額の払出しや振込みについてのお尋ねやアンケートを実施する等、警察と連携して声掛けを行っておりますので、何卒ご理解とご協力をお願い致します。

### 法令等遵守態勢

法令等遵守（コンプライアンス）とは、役職員が法令、諸規則、社会諸規則等を遵守し、企業倫理に反することなく、誠実かつ公正に業務を遂行することをいいます。

金融システム改革により、金融機関の業務は一段と多様化・高度化する一方で、経営上のリスクも急速に増加しています。金融機関には、自己責任原則に基づく経営と法令等遵守は勿論のこと、業務運営の透明性をより高めながら自ら社会的責任と公共的使命を果たしていくことが強く求められています。

当組合としても、法令等遵守を経営上の最重要課題の一つであると位置付け、理事長をはじめとした経営陣が、コンプライアンス基本方針のもと、企業倫理の確立および法令やルールの厳格な遵守、すなわちコンプライアンスを組織全体に浸透させ、役職員一丸となって不祥事の防止に努め、当組合の社会的責任と公共的使命を十分認識し、法令やルールの遵守を心掛けるように努めています。

なお、コンプライアンスの実践については、毎年策定しているコンプライアンス・プログラムに基づき実施しており、コンプライアンス委員会がプログラムの進捗状況を管理しています。

#### コンプライアンス基本方針

##### 1. 社会的使命と公共性の自覚と責任

健全経営のもと、中小零細企業者及び勤労者の金融の円滑化に努め、また、お客様（組合員の方々）へのサービスの向上に努めることにより、地域の経済、社会、生活の健全な発展に貢献します。

##### 2. 信頼の確保

各種法令、規則を遵守し、誠実、公正な行動により、社会・顧客からの信頼の確保に努めます。

##### 3. 経営の透明性の確保

組合員の皆様、地域社会並びに職員とのコミュニケーションを重視

し、開かれた経営を実践します。

#### 4. 反社会的勢力の排除

反社会的勢力の介入に対して、企業として断固として立ち向かいこれを排除します。

### 利益相反管理方針

#### (本方針の目的)

第1条 当組合は当組合が行う業務において、顧客との利益相反取引を適切に管理し、顧客の利益が不当に害されることがないように、適切な取組みを行う態勢を確保することを目的に本方針を制定する。

#### (統括部署)

第2条 当組合はコンプライアンス統括部署を「利益相反管理統括部署」とし、利益相反管理統括部署は、当組合における利益相反取引にかかる情報を集約・管理するものとする。

利益相反管理統括部署の長は法務部長とし、営業部門から独立する。

#### (範囲)

第3条 当組合が利益相反管理の対象とする範囲は、当組合のみとする。

#### (利益相反取引の特定)

第4条 当組合において、利益相反管理の対象となる取引（以下「対象取引」）とは、顧客の利益を不当に害する可能性が高い利益相反取引をいい、顧客との取引が対象取引に該当するか否かについては、利益相反管理統括部署が適切に特定を行うものとする。

#### (対象取引の類型化)

第5条 当組合において、対象取引とは「当組合と顧客」及び「顧客と他の顧客」の各々について、以下の取引を指すものとする。

- (1) 利害対立型取引
- (2) 利害競争型取引
- (3) 情報利用型取引
- (4) その他、上記に準じて顧客の利益を不当に害する取引

#### (対象取引の管理方法)

第6条 当組合において、前条に定める対象取引のうち、利益相反取引が発生する場合においては、以下に記載する管理方法を選択するか、又は複数を組み合わせて選択することにより、利益相反取引を適切に管理するものとする。

- (1) 部門の分離（情報共有先の制限）
- (2) 取引条件または取引方法の変更
- (3) 一方の取引の中止
- (4) 利益相反事実の顧客への開示（同意）

#### (検証体制)

第7条 当組合は、利益相反管理統括部署において、定期的には又は必要に応じて利益相反管理態勢の検証を行い、検証結果に基づき、利益相反管理のための適切な措置を講じるものとする。

#### (研修・教育)

第8条 当組合は、役職員に対して、利益相反管理に係る研修・教育を継続的に実施し、利益相反管理に係る意識の向上に努めるものとする。

## 貸借対照表

(単位：千円)

科 目 (資産の部)	金 額	
	令和元年度	令和2年度
現金	807,323	930,209
預 け	20,105,695	22,595,231
有 価 証 券	18,904,947	21,833,573
国 債	3,002,340	4,447,220
地 方 債	303,410	203,060
社 債	14,936,727	15,973,950
株 式	70,972	83,764
その他の証券	591,498	1,125,579
貸 出 金	31,288,569	35,356,125
割 引 手 形	553,266	381,162
手 形 貸 付	1,369,167	833,997
証 書 貸 付	28,433,897	33,374,444
当 座 貸 越	932,238	766,522
そ の 他 資 産	698,558	688,864
未 決 済 為 替 貸	2,394	2,489
全 信 組 連 出 資 金	567,400	567,400
前 払 費 用	12	12
未 収 収 益	76,807	81,967
そ の 他 の 資 産	51,944	36,996
有 形 固 定 資 産	553,081	529,390
建 物	237,431	226,896
土 地	237,183	237,183
リ ー ス 資 産	40,822	31,426
その他の有形固定資産	37,642	33,883
無 形 固 定 資 産	2,241	2,180
ソ フ ト ウ ェ ア	272	211
その他の無形固定資産	1,969	1,969
繰 延 税 金 資 産	8,943	—
債 務 保 証 見 返	64,621	67,051
貸 倒 引 当 金	△611,814	△ 612,735
(うち個別貸倒引当金)	(△ 601,822)	(△ 595,617)
資 産 の 部 合 計	71,822,167	81,389,892

科 目 (負債の部)	金 額	
	令和元年度	令和2年度
預 金 積 金	64,013,769	71,037,434
当 座 預 金	198,234	255,553
普 通 預 金	17,524,605	21,204,553
通 知 預 金	2,000	12,965
定 期 預 金	43,038,533	46,119,307
定 期 積 金	3,096,541	3,299,252
そ の 他 の 預 金	153,855	145,802
借 用 金	800,000	3,000,000
借 入 金	800,000	3,000,000
そ の 他 負 債	179,199	149,750
未 決 済 為 替 借	5,765	3,769
未 払 費 用	51,418	64,225
給 付 補 填 備 金	2,380	2,591
未 払 法 人 税 等	24,415	15,957
前 受 収 益	17,245	20,316
払 戻 未 済 金	11	29
リ ー ス 債 務	40,822	31,426
そ の 他 の 負 債	37,139	11,433
賞 与 引 当 金	37,006	37,344
退 職 給 付 引 当 金	44,497	49,104
役 員 退 職 慰 労 引 当 金	97,083	105,420
睡 眠 預 金 払 戻 損 失 引 当 金	1,000	1,000
偶 発 損 失 引 当 金	6,887	6,404
繰 延 税 金 負 債	—	80,313
債 務 保 証	64,621	67,051
負 債 の 部 合 計	65,244,065	74,533,822
(純資産の部)		
出 資 金	255,925	255,925
普 通 出 資 金	255,925	255,925
利 益 剰 余 金	6,203,276	6,238,144
利 益 準 備 金	255,925	255,925
そ の 他 利 益 剰 余 金	5,947,351	5,982,219
特 別 積 立 金	5,572,408	5,572,408
(うち経営安定化積立金)	(1,300,000)	(1,300,000)
当 期 未 処 分 剰 余 金	374,943	409,810
組 合 員 勘 定 合 計	6,459,201	6,494,069
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	118,900	362,000
評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	118,900	362,000
純 資 産 の 部 合 計	6,578,102	6,856,069
負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計	71,822,167	81,389,892



(注)

1. 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。なお、以下の注記については、表示単位未満を切り捨てて表示しております。
2. 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、その他有価証券のうち時価のあるものについては事業年度末の市場価格等に基づく時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法又は償却原価法により行っております。なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。
3. 有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却は、定率法(ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法)を採用しております。また、主な耐用年数は次のとおりであります。
 

建 物	20年～32年
そ の 他	3年～20年
4. 無形固定資産(リース資産を除く)の減価償却は定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当組合内における利用可能期間(5年)に基づいて償却しております。
5. 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法によっております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。
6. 貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。
 

日本公認会計士協会 銀行等監査特別委員会報告第4号「銀行等金融機関の資産の自己査定並びに貸倒償却及び貸倒引当金の監査に関する実務指針」(令和2年10月8日)に規定する正常先債権及び要注意先債権に相当する債権については、主として今後1年間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は、1年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、これに将来見込み等必要な修正を加えて算定しております。破綻懸念先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち必要と認める額を計上しております。破綻先債権及び実質破綻先債権に相当する債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額を計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、融資管理部(営業関連部署)の協力の下に自己査定委員会(資産査定部署)が資産査定を実施しております。また、正常先及び要注意先債権に係る信用保証協会の責任共有制度に基づく負担金の支出に備えるため、過去の負担金実績から算出した将来の負担金支出見込額を計上しております。
7. 賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。
8. 退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、必要額を計上しております。当組合は、複数事業主(信用組合等)により設立された企業年金制度(企業年金基金)を採用しております。
 

なお、当組合が加入していた全国信用組合厚生年金基金は令和3年2月23日付で代行返上・DB移行に係る厚生労働大臣の認可を受け令和3年3月1日付で解散しました。また、同日に全国信用組合企業年金基金が設立され、当組合は全国信用組合企業年金基金に加入しました。

全国信用組合企業年金基金は令和3年3月1日に設立され、第1期の財政決算報告書を作成していないため、当事業年度については記載を省略しております。全国信用組合企業年金基金の制度に関する事項は次のとおりです。

  - (1) 制度全体の積立状況に関する事項(令和2年3月31日現在)
 

年金資産の額	326,130百万円
年金財政計算上の数理債務の額と最低責任準備金の額との合計額	282,169百万円
差引額	43,960百万円
  - (2) 制度全体に占める当組合の掛金拠出割合(平成31年4月～令和2年3月)
 

0.493%
  - (3) 補足説明
 

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高20,484百万円及び別途積立金64,445百万円であり、本制度における過去勤務債務の償却方法は残年数12年の元利均等償却であり、当組合は当期の計算書類上、特別掛金10百万円を費用処理しております。

また、年金財政計算上の繰越不足金については、財政再計算に基づき必要に応じて特別掛金率を引き上げる等の方法により処理されることになっております。

なお、特別掛金の額はあらかじめ定められた掛金率を掛金拠出時の標準給与の額に乗じることで算定されるため、上記(2)の割合は、当組合の実際の負担割合とは一致しません。
9. 役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払いに備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見込額のうち、当事業年度末までに発生していると認められる額を計上しております。
10. 睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積もり、必要と認める額を計上しております。
11. 破綻懸念先以下の債権に係る信用保証協会の責任共有制度に基づく負担金の支出に備えるため、過去の負担金実績から算出した将来の負担金支出見込額のうち、正常先及び要注意先債権に係るものを貸倒引当金に2,096千円、破綻懸念先以下の債権に係るものを偶発損失引当金に6,404千円計上しております。
12. 消費税及び地方消費税の会計処理は、税込方式によっております。
13. (表示方法の変更)
 「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 令和2年3月31日)を当事業年度の計算書類等から適用し、計算書類に重要な会計上の見積りに関する注記を記載しております。
14. (重要な会計上の見積り)
 会計上の見積りにより当事業年度に係る計算書類にその額を計上した項目であって、翌事業年度に係る計算書類に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次の

とおります。

(1) 貸倒引当金の見積り

- ① 計算書類に計上した金額
 

貸倒引当金	612百万円
-------	--------
  - ② 見積り内容について計算書類利用者の理解に資するその他の情報
    - (i) 見積りの金額の算出方法
 

貸倒引当金の算出方法は、6に記載しております。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響も踏まえ、当組合は見積りに影響を及ぼす入手可能な情報を債務者区分に反映し、貸倒引当金を計上しております。なお、当事業年度は予想損失率の修正を実施しておりません。
    - (ii) 見積りの算出に用いた主要な仮定
 

主要な仮定は、「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」であります。「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」は、各債務者の収益獲得能力を個別に評価し、設定しております。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う経済への影響は今後当面の間は続くものと想定し、特に当組合の貸出金等の信用リスクに一定の影響があるとの仮定を置いております。
    - (iii) 翌事業年度の計算書類に与える影響
 

新型コロナウイルス感染症の状況や個別貸出先の業績変化等により、当初の見積りに用いた仮定が変化した場合は、翌事業年度に係る計算書類における貸倒引当金に重要な影響を及ぼす可能性があります。
15. 理事及び監事との間の取引による理事及び監事に対する金銭債権総額
 

402百万円
--------
  16. 有形固定資産の減価償却累計額
 

938百万円
--------
  17. 貸出金のうち、破綻先債権額は292百万円、延滞債権額は1,405百万円であり、なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払いの遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込がないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く)。以下「未収利息不計上貸出金」という。のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。
 

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払いを猶予した貸出金以外の貸出金であります。
  18. 貸出金のうち、3か月以上延滞債権はありません。
 

なお、3か月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払いが約定支払日の翌日から3か月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
  19. 貸出金のうち、貸出条件緩和債権はありません。
 

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3か月以上延滞債権に該当しないものであります。
  20. 破綻先債権額、延滞債権額、3か月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は1,697百万円であり、
 

なお、17から19に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
  21. 貸借対照表に計上した有形固定資産のほか、営業用車両及び端末機等についてリース契約により使用しています。
  22. 手形割引により取得した商業手形の額面金額は、381百万円であり、
  23. 担保に提供している資産は、次のとおりであります。
 

担保提供している資産	預け金	3,637百万円
	有価証券	1,849百万円
担保資産に対応する債務	借入金	3,000百万円
  24. 出資1口当たりの純資産額
 

26,789円37銭
------------
  25. 金融商品の状況に関する事項
    - (1) 金融商品に対する取組方針
 

当組合は、預金業務、融資業務および市場運用業務などの金融業務を行っております。このため、金利変動による不利な影響が生じないように、資産及び負債の総合的管理(ALM)をしております。
    - (2) 金融商品の内容及びそのリスク
 

当組合が保有する金融資産は、主として事業地区内のお客様に対する貸出金です。また、有価証券は、主に、債券、投資信託及び株式であり、満期保有目的、事業推進目的で保有しております。これらは、それぞれ発行体の信用リスク及び金利の変動リスク、市場価格の変動リスクに晒されております。一方、金融負債は主としてお客様からの預金であり、流動性リスクに晒されております。
    - (3) 金融商品に係るリスク管理体制
      - ① 信用リスクの管理
 

当組合は、信用リスクに関する管理諸規程に従い、貸出金について、個別案件ごとの与信審査、与信限度管理、信用情報管理、保証や担保の設定、問題債権への対応など信用管理に関する体制を整備し運営しております。これらの与信管理は、各営業店のほか融資管理部により行われ、また、定期的に経営陣によるリスク管理委員会や理事会を開催し、審議・報告を行っております。さらに、与信管理の状況については、融資管理部がチェックしております。有価証券の発行体の信用リスクに関しては、総務企画部において、信用情報や時価の把握を定期的に行うことで管理しております。
      - ② 市場リスクの管理
        - (i) 金利リスクの管理
 

当組合は、ALMによって金利の変動リスクを管理しております。ALMに関する規則及び要領において、リスク管理方法や手続等の詳細を明記しており、リスク管理委員会において決定されたALMに関する方針に基づき、理事会において実施状況の把握・確認、今後の対応等の協議を行っています。日常的には総務企画部において金融資産及び負債の金利や期間を総合的に把握し、ギャップ分析や金利感応度分析等によりモニタリングを行い、月次ペースでリスク管理委員会に報告しております。

## (ii) 価格変動リスクの管理

有価証券を含む市場運用商品の保有については、リスク管理委員会の方針に基づき、理事会の監督の下、リスク管理規程に従い行われております。

このうち、総務企画部では、市場運用商品の購入を行っており、事前審査、投資限度額の設定のほか、継続的なモニタリングを通じて、価格変動リスクの軽減を図っております。

総務企画部で保有している株式は、事業推進目的で保有しているものであり、取引先の市場環境や財務状況などをモニタリングしています。これらの情報は総務企画部を通じ、理事会及びリスク管理委員会において定期的に報告されております。

## (iii) 市場リスクに係る定量的情報

当組合において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、預け金、有価証券のうち債券、貸出金、預金積金、借入金であります。

当組合では、これらの金融資産及び金融負債について、保有期間1年、過去5年の観測期間で計測される99パーセンタイル値を用いた時価の変動額を市場リスク量とし、金利の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しております。

当該変動額の算定にあたっては、対象の金融資産及び金融負債を固定金利群と変動金利群に分けて、それぞれ金利期日に応じて適切な期間に残高を分解し、期間ごとの金利変動幅を用いております。

なお、金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、当事業年度末現在、金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定した場合の99パーセンタイル値を用いた時価は、844百万円増加するものと把握しております。

当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数との相関を考慮しておりません。また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

## ③ 資金調達に係る流動性リスクの管理

当組合は、ALMを通して、適時に資金管理を行うほか、資金調達手段の多様化、市場環境を考慮した長短の調達バランスの調整などによって、流動性リスクを管理しております。

## (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。なお、金融商品のうち貸出金、預け金、預金積金及び借入金については、簡便な計算により算出した時価に代わる金額を開示しております。

## 26. 金融商品の時価等に関する事項

令和3年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は、次表には含まれておりません。

また、重要性の乏しい科目については記載を省略しております。

(単位：百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 預け金(*1)	22,595	22,618	22
(2) 有価証券			
その他有価証券	21,806	21,806	—
(3) 貸出金(*1)	35,356		
貸倒引当金(*2)	△ 612		
金融資産計	34,743	37,218	2,475
金融資産計	79,144	81,643	2,498
(1) 預金積金(*1)	71,037	71,121	83
(2) 借入金(*1)	3,000	3,000	—
金融負債計	74,037	74,121	83

(\*1) 預け金、貸出金、預金積金及び借入金の「時価」には、「簡便な計算により算出した時価に代わる金額」を記載しております。

(\*2) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

## (注1) 金融商品の時価等の算定方法

## 金融資産

## (1) 預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。満期のある預け金については、市場金利(LIBOR、SWAP等)で割り引くことで現在価値を算定し、当該現在価値を時価とみなしております。

## (2) 有価証券

株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

投資信託は、公表されている基準価格によっております。

なお、保有目的区分ごとの有価証券に関する注記事項については27に記載しております。

## (3) 貸出金

貸出金は、以下の①～②の方法により算出し、その算出結果を簡便な方法により算出した時価に代わる金額として記載しております。

① 破綻懸念先債権、実質破綻先債権及び破綻先債権等、将来キャッシュ・フローの見積りが困難な債権については、それぞれの帳簿価額の合計額から貸出金に対応する個別貸倒引当金を控除した価額

② ①以外の債権については、貸出金の期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を市場金利で割り引いた価額

## 金融負債

## (1) 預金積金

要求払預金については、決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしております。また、定期預金の時価は、一定の期間ごとに区分して、将来のキャッシュ・フローを割り引いて現在価値を算定し、その算出結果を時価に代わる金額として記載しております。その割引率は、無リスク利率を用いております。

## (2) 借入金

借入金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりであり、金融商品の時価情報には含まれておりません。

(単位：百万円)

区 分	貸借対照表計上額
非上場株式等(*1)	27
組合出資金(*2)	567

(\*1) 非上場株式等については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象としておりません。

(\*2) 組合出資金(全信組連出資金等)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしておりません。

## 27. 有価証券の時価、評価差額等に関する事項は次のとおりであります。

- (1) 売買目的有価証券に区分した有価証券はありません。
- (2) 満期保有目的の債券に区分した有価証券はありません。
- (3) 子会社・子法人等株式及び関連法人等株式に区分した有価証券はありません。
- (4) その他有価証券

## 【貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの】

	貸借対照表計上額	取得原価	差額
債券	17,110百万円	16,633百万円	477百万円
国債	2,958	2,713	244
地方債	203	200	3
社債	13,948	13,719	229
その他	1,124	1,006	118
小計	18,234	17,639	595

## 【貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの】

	貸借対照表計上額	取得原価	差額
株式	57百万円	71百万円	△ 14百万円
債券	3,513	3,594	△ 80
国債	1,488	1,493	△ 4
社債	2,025	2,101	△ 76
小計	3,571	3,666	△ 95
合計	21,806	21,305	500

(注) 貸借対照表計上額は、当事業年度末における市場価格等に基づく時価により計上したものであります。

## 28. 当期中に売却した満期保有目的の債券はありません。

## 29. 当期中に売却したその他有価証券は次のとおりであります。

売却価額	売却益	売却損
2,506百万円	14百万円	一百万円

## 30. その他有価証券のうち満期があるものの償還予定額は次のとおりであります。

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
債券	600百万円	4,658百万円	3,175百万円	12,190百万円
国債	—	542	1,158	2,745
地方債	—	—	—	203
社債	600	4,115	2,016	9,241
合計	600	4,658	3,175	12,190

## 31. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客から融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、5,037百万円です。このうち原契約期間が1年以内のもの又は任意の時期に無条件で取消可能なものが5,037百万円あります。

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当組合の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全、その他相当の事由があるときは、当組合が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条件が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている当組合内手続きに基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

## 32. 繰延税金資産及び繰延税金負債の主な発生原因別の内訳は、それぞれ以下のとおりであります。

## 繰延税金資産

貸倒引当金損金算入限度額超過額	43百万円
賞与引当金	10
減価償却の償却超過額	16
退職給付引当金損金算入限度額超過額	13
役員退職慰労引当金	29
その他	40
繰延税金資産小計	153
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	△ 68
評価性引当額小計	△ 68
繰延税金資産合計	84

## 繰延税金負債

その他有価証券評価差額金	164
繰延税金負債合計	164
繰延税金負債の純額	80百万円



## 経理・経営内容

### 損益計算書

(単位：千円)

科 目	令和元年度	令和2年度
<b>経 常 収 益</b>	<b>1,065,367</b>	<b>1,018,620</b>
資金運用収益	961,128	963,613
貸出金利息	710,445	693,142
預け金利息	22,966	27,466
有価証券利息配当金	214,113	230,246
その他の受入利息	13,602	12,758
役務取引等収益	35,168	39,250
受入為替手数料	20,017	22,016
その他の役務収益	15,151	17,234
その他業務収益	62,963	15,090
国債等債券売却益	62,174	14,115
国債等債券償還益	—	117
その他の業務収益	789	857
その他経常収益	6,105	665
償却債権取立益	240	138
株式等売却益	4,998	—
その他の経常収益	866	526
<b>経 常 費 用</b>	<b>984,339</b>	<b>949,286</b>
資金調達費用	37,764	37,437
預金利息	35,132	36,241
給付補填備金繰入額	2,632	2,697
借用金利息	—	△ 1,501
役務取引等費用	131,479	119,008
支払為替手数料	8,403	8,670
その他の役務費用	123,075	110,338
その他業務費用	4,941	248
国債等債券売却損	4,819	—
国債等債券償還損	—	91
その他の業務費用	122	157
経 費	775,828	787,420
人 件 費	556,767	568,402
物 件 費	212,379	212,108
税 金	6,680	6,908
その他経常費用	34,325	5,171
貸倒引当金繰入額	33,465	921
その他の経常費用	859	4,250
<b>経 常 利 益</b>	<b>81,027</b>	<b>69,333</b>

科 目	令和元年度	令和2年度
<b>特 別 利 益</b>	<b>—</b>	<b>—</b>
固定資産処分益	—	—
<b>特 別 損 失</b>	<b>—</b>	<b>—</b>
固定資産処分損	—	—
<b>税引前当期純利益</b>	<b>81,027</b>	<b>69,333</b>
法人税、住民税及び事業税	29,039	22,805
法人税等調整額	365	△ 3,694
<b>法人税等合計</b>	<b>29,404</b>	<b>19,110</b>
<b>当期純利益</b>	<b>51,623</b>	<b>50,222</b>
<b>繰越金(当期首残高)</b>	<b>323,320</b>	<b>359,588</b>
<b>当期末処分剰余金</b>	<b>374,943</b>	<b>409,810</b>

(注)

- 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。なお、以下の注記については、表示単位未満を切り捨てて表示しております。
- 出資1口当たりの当期純利益 196円24銭

### 剰余金処分計算書

(単位：千円)

科 目	令和元年度	令和2年度
<b>当期末処分剰余金</b>	<b>374,943</b>	<b>409,810</b>
<b>剰余金処分額</b>	<b>15,355</b>	<b>15,349</b>
利益準備金	—	—
普通出資に対する配当金	15,355	15,349
	(年 6%の割合)	(年 6%の割合)
経営安定化積立金	—	—
<b>繰越金(当期末残高)</b>	<b>359,588</b>	<b>394,461</b>

### 業務粗利益及び業務純益等

(単位：千円)

科 目	令和元年度	令和2年度
資金運用収益	961,128	963,613
資金調達費用	37,764	37,437
資金運用収支	923,363	926,176
役務取引等収益	35,168	39,250
役務取引等費用	131,479	119,008
役務取引等収支	△ 96,310	△ 79,757
その他業務収益	62,963	15,090
その他業務費用	4,941	248
その他の業務収支	58,021	14,841
業務粗利益	885,075	861,259
業務粗利益率	1.23%	1.03%
業務純益	115,290	75,050
実質業務純益	116,850	82,176
コア業務純益	59,495	68,034
コア業務純益 (投資信託解約損益を除く。)	59,495	68,034

(注)

- 業務粗利益率=業務粗利益/資金運用勘定計平均残高×100
- 業務純益=業務収益-(業務費用-金銭の信託運用見合費用)
- 実質業務純益=業務純益+一般貸倒引当金繰入額
- コア業務純益=実質業務純益-国債等債券損益



経理・経営内容

経費の内訳

(単位：千円)

項目	令和元年度	令和2年度
人件費	556,767	568,402
報酬給料手当	446,188	455,690
退職給付費用	39,530	39,765
その他	71,048	72,946
物件費	212,379	212,108
事務費	106,326	107,532
固定資産費	29,614	32,461
事業費	20,545	18,331
人事厚生費	5,630	5,127
有形固定資産償却	30,006	28,042
無形固定資産償却	30	60
その他	20,226	20,552
税金	6,680	6,908
経費合計	775,828	787,420

役員取引の状況

(単位：千円)

科目	令和元年度	令和2年度
役員取引等収益	35,168	39,250
受入為替手数料	20,017	22,016
その他の受入手数料	15,145	17,217
その他の役員取引等収益	6	16
役員取引等費用	131,479	119,008
支払為替手数料	8,403	8,670
その他の支払手数料	738	742
その他の役員取引等費用	122,337	109,596

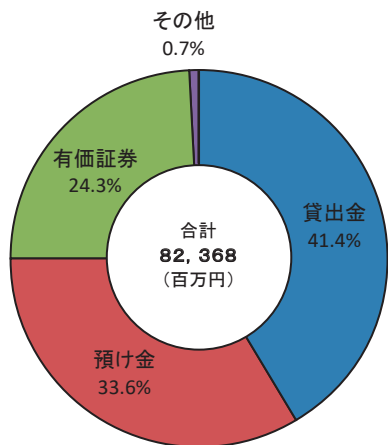
受取利息及び支払利息の増減

(単位：千円)

項目	令和元年度	令和2年度
受取利息の増減	11,551	2,485
支払利息の増減	1,792	△ 326

資金運用勘定、調達勘定の平均残高等

資金運用別構成比



総資産利益率

(単位：%)

区分	令和元年度	令和2年度
総資産経常利益率	0.11	0.08
総資産当期純利益率	0.07	0.06

(注) 総資産経常(当期純)利益率 =  $\frac{\text{経常(当期純)利益}}{\text{総資産(債務保証見返を除く)平均残高}} \times 100$

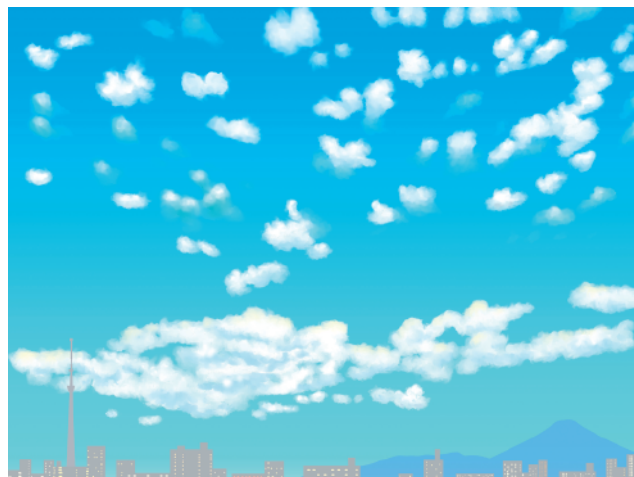
総資金利鞘等

(単位：%)

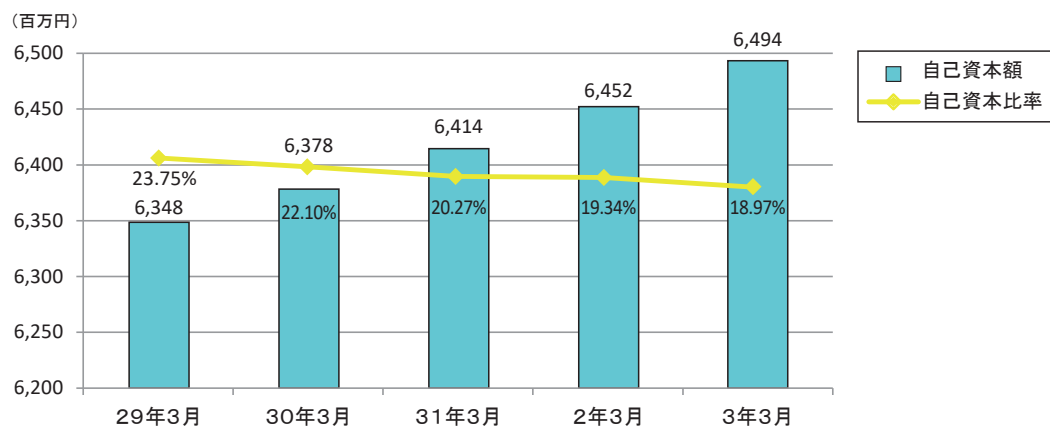
区分	令和元年度	令和2年度
資金運用利回(a)	1.34	1.16
資金調達原価率(b)	1.23	1.06
資金利鞘(a-b)	0.11	0.10

科目	年度	平均残高	利息	利回り	
資金運用勘定	元年度	71,569 百万円	961,128 千円	1.34 %	
	2年度	82,368	963,613	1.16	
	うち貸出金	元年度	30,659	710,445	2.31
		2年度	34,120	693,142	2.03
	うち預け金	元年度	21,679	22,966	0.10
		2年度	27,682	27,466	0.09
	うち有価証券	元年度	18,663	214,113	1.14
2年度		19,997	230,246	1.15	
うちその他	元年度	567	13,602	2.39	
	2年度	567	12,758	2.24	
資金調達勘定	元年度	65,851	37,764	0.05	
	2年度	76,571	37,437	0.04	
	うち預金積金	元年度	65,137	37,764	0.05
		2年度	74,264	38,938	0.05
	うち譲渡性預金	元年度	—	—	—
		2年度	—	—	—
	うち借入金	元年度	713	—	0.00
2年度		2,307	△ 1,501	△ 0.06	

(注) 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高(元年度16百万円、2年度25百万円)を控除して表示しております。



自己資本の充実状況

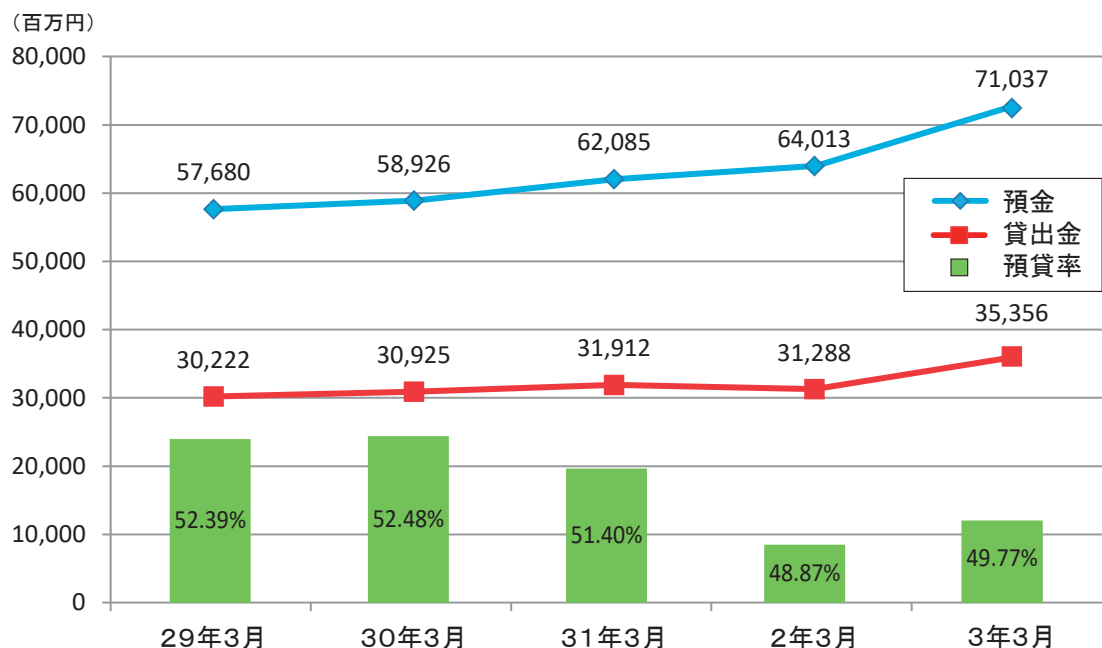


(単位：千円)

項 目	令和元年度	令和2年度
コア資本に係る基礎項目(1)		
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る組合員勘定又は会員勘定の額	6,443,846	6,478,719
うち、出資金及び資本剰余金の額	255,925	255,925
うち、利益剰余金の額	6,203,276	6,238,144
うち、外部流出予定額(△)	15,355	15,349
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	9,992	17,118
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	9,992	17,118
うち、適格引当金コア資本算入額	—	—
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の45パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
コア資本に係る基礎項目の額(イ)	6,453,838	6,495,837
コア資本に係る調整項目(2)		
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)の額の合計額	1,622	1,577
うち、のれんに係るものの額	—	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	1,622	1,577
繰延税金資産(一時差異に係るものを除く。)の額	—	—
適格引当金不足額	—	—
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—	—
前払年金費用の額	—	—
自己保有普通出資等(純資産の部に計上されるものを除く。)の額	—	—
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—	—
少数出資金融機関等の対象普通出資等の額	—	—
信用協同組合連合会の対象普通出資等の額	—	—
特定項目に係る10パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	—	—
特定項目に係る15パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	—	—
コア資本に係る調整項目の額(ロ)	1,622	1,577
自 己 資 本		
自己資本の額((イ)-(ロ))(ハ)	6,452,215	6,494,260
リスク・アセット等		
信用リスク・アセットの額の合計額	31,556,638	32,433,322
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	—	—
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	—	—
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8パーセントで除して得た額	1,792,406	1,795,940
信用リスク・アセット調整額	—	—
オペレーショナル・リスク相当額調整額	—	—
リスク・アセット等の額の合計額(ニ)	33,349,045	34,229,262
自 己 資 本 比 率		
自己資本比率((ハ)/(ニ))	19.34%	18.97%

(注) 自己資本比率の算出方法を定めた「協同組合による金融事業に関する法律第六条第一項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用協同組合及び信用協同組合連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第22号)」に係る算式に基づき算出しております。なお、当組合は国内基準により自己資本比率を算出しております。

## 主要な経営指標の推移



(単位：千円)

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
経常収益	1,106,874	1,054,054	1,046,416	1,065,367	1,018,620
経常利益	72,083	79,311	86,739	81,027	69,333
当期純利益	62,300	47,764	59,465	51,623	50,222
預金積金残高	57,680,693	58,926,382	62,085,961	64,013,769	71,037,434
貸出金残高	30,222,103	30,925,726	31,912,929	31,288,569	35,356,125
有価証券残高	18,011,764	16,792,471	19,813,228	18,904,947	21,833,573
総資産額	67,243,896	66,124,879	69,967,623	71,822,167	81,389,892
純資産額	6,664,827	6,713,138	6,925,514	6,578,102	6,856,069
自己資本比率(単体)	23.75 %	22.10 %	20.27 %	19.34 %	18.97 %
出資総額	255,925	255,925	255,925	255,925	255,925
組合員数	15,885	15,804	15,847	15,716	15,603
うち個人	14,869	14,784	14,822	14,697	14,588
うち法人	1,016	1,020	1,025	1,019	1,015
出資総口数	255,925 口	255,925 口	255,925 口	255,925 口	255,925 口
出資に対する配当金	15,356	15,352	15,346	15,355	15,349
職員数	100 人	95 人	88 人	87 人	84 人

(注) 1. 残高計数は期末日現在のものです。

2. 「自己資本比率(単体)」は、平成18年金融庁告示第22号により算出しております。

## 預貸率及び預証率

(単位：%)

区 分	令和元年度	令和2年度
預 貸 率	(期 末)	48.87
	(期中平均)	47.06
預 証 率	(期 末)	29.53
	(期中平均)	28.65

(注) 1. 預貸率 =  $\frac{\text{貸出金}}{\text{預金積金} + \text{譲渡性預金}} \times 100$ 2. 預証率 =  $\frac{\text{有価証券}}{\text{預金積金} + \text{譲渡性預金}} \times 100$ 

## 1店舗当りの預金及び貸出金残高

(単位：百万円)

区 分	令和元年度末	令和2年度末
1店舗当りの預金残高	6,401	7,103
1店舗当りの貸出金残高	3,128	3,535

(注) 預金残高には譲渡性預金を含んでおります。

## 職員1人当りの預金及び貸出金残高

(単位：百万円)

区 分	令和元年度末	令和2年度末
職員1人当りの預金残高	735	845
職員1人当りの貸出金残高	359	420

(注) 預金残高には譲渡性預金を含んでおります。

## 経理・経営内容

### 有価証券の時価等情報

#### 売買目的有価証券

該当事項なし

#### 満期保有目的の債券

(単位：百万円)

項 目	令和元年度			令和2年度		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	国 債	—	—	—	—	—
	地 方 債	—	—	—	—	—
	社 債	399	403	3	—	—
	そ の 他	—	—	—	—	—
	小 計	399	403	3	—	—
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	国 債	—	—	—	—	—
	地 方 債	—	—	—	—	—
	社 債	—	—	—	—	—
	そ の 他	—	—	—	—	—
	小 計	—	—	—	—	—
合 計	399	403	3	—	—	

- (注) 1. 時価は、当事業年度末における市場価格等に基づいております。  
 2. 「社債」には、政府保証債、公社公団債、事業債が含まれます。  
 3. 上記の「その他」は、投資信託等です。  
 4. 時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券は本表には含めておりません。

#### 子会社・子法人等株式及び関連法人等株式で時価のあるもの

該当事項なし

#### 時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券

(単位：百万円)

項 目	令和元年度	令和2年度
	貸借対照表計上額	貸借対照表計上額
子 会 社 ・ 子 法 人 等 株 式	—	—
関 連 法 人 等 株 式	—	—
非 上 場 株 式	27	27
合 計	27	27

#### その他有価証券

(単位：百万円)

項 目	令和元年度			令和2年度		
	貸借対照表計上額	取得原価	差 額	貸借対照表計上額	取得原価	差 額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株 式	—	—	—	—	—
	債 券	13,138	12,716	421	17,110	16,633
	国 債	3,002	2,715	287	2,958	2,713
	地 方 債	303	299	3	203	200
	社 債	9,832	9,701	130	13,948	13,719
	そ の 他	31	29	1	1,124	1,006
小 計	13,169	12,746	422	18,234	17,639	
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株 式	44	71	△ 27	57	71
	債 券	4,704	4,823	△ 118	3,513	3,594
	国 債	—	—	—	1,488	1,493
	地 方 債	—	—	—	—	—
	社 債	4,704	4,823	△ 118	2,025	2,101
	そ の 他	559	671	△ 112	—	—
小 計	5,308	5,566	△ 258	3,571	3,666	
合 計	18,477	18,313	164	21,806	21,305	

- (注) 1. 貸借対照表計上額は、当事業年度末における市場価格等に基づいております。  
 2. 「社債」には、政府保証債、公社公団債、事業債が含まれます。  
 3. 上記の「その他」は、投資信託等です。  
 4. 時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券は本表には含めておりません。

## 経理・経営内容

### 金銭の信託

#### 運用目的の金銭の信託

該当事項なし

#### 満期保有目的の金銭の信託

該当事項なし

#### その他の金銭の信託

該当事項なし

## 経理・経営内容

### その他業務収益の内訳

(単位：百万円)

項 目	令和元年度	令和2年度
外国為替売買益	—	—
商品有価証券売買益	—	—
国債等債券売却益	62	14
国債等債券償還益	—	0
金融派生商品収益	—	—
その他の業務収益	0	0
その他業務収益合計	62	15

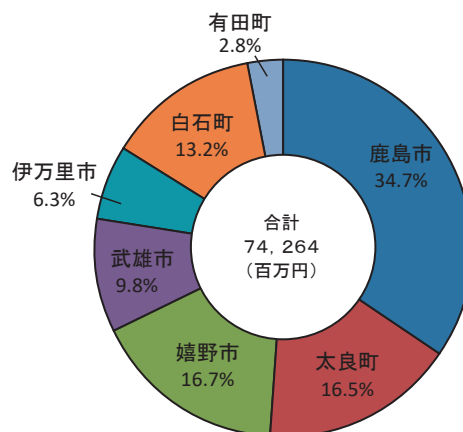
## 資金調達

### 預金種目別平均残高

(単位：百万円、%)

種 目	令和元年度末		令和2年度末	
	金 額	構成比	金 額	構成比
流動性預金	16,769	25.7	20,810	28.0
定期性預金	48,367	74.3	53,454	72.0
譲渡性預金	—	—	—	—
その他の預金	—	—	—	—
合 計	65,137	100.0	74,264	100.0

### 地域別預金平均残高比率

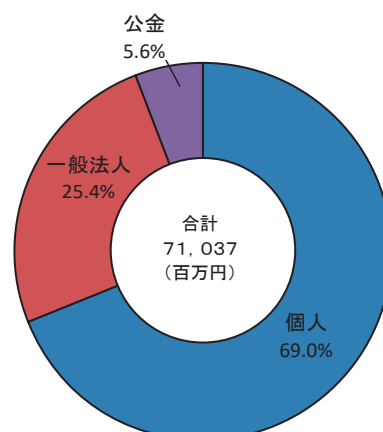


### 定期預金種類別残高

(単位：百万円)

区 分	令和元年度末	令和2年度末
固定金利定期預金	43,038	46,119
変動金利定期預金	—	—
その他の定期預金	—	—
合 計	43,038	46,119

### 預金者別構成比



### 預金者別預金残高

(単位：百万円、%)

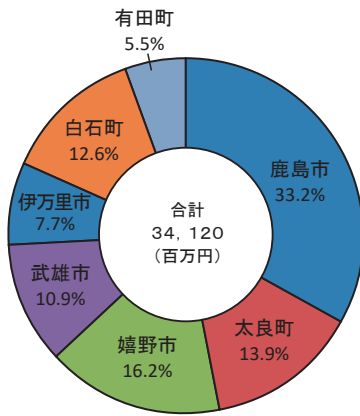
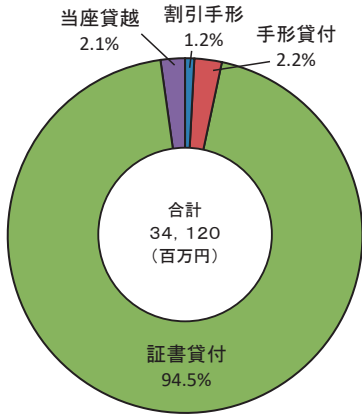
区 分	令和元年度末		令和2年度末	
	金 額	構成比	金 額	構成比
個人	46,017	71.9	49,003	69.0
法人	17,996	28.1	22,033	31.0
一般法人	14,780	23.1	18,049	25.4
金融機関	—	—	—	—
公 金	3,216	5.0	3,983	5.6
合 計	64,013	100.0	71,037	100.0

## 資金運用

### 貸出金種類別平均残高 (単位：百万円、%)

貸出金種類別構成比

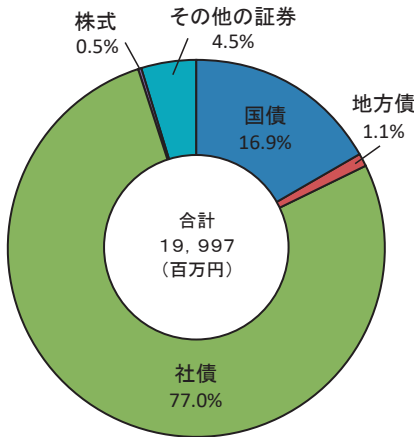
地域別貸出金平均残高比率



科目	令和元年度		令和2年度	
	金額	構成比	金額	構成比
割引手形	514	1.7	400	1.2
手形貸付	996	3.2	766	2.2
証書貸付	28,560	93.2	32,248	94.5
当座貸越	589	1.9	705	2.1
合計	30,659	100.0	34,120	100.0

### 有価証券種類別平均残高 (単位：百万円、%)

有価証券種類別構成比



区分	令和元年度		令和2年度	
	金額	構成比	金額	構成比
国債	3,282	17.6	3,371	16.9
地方債	415	2.2	222	1.1
社債	14,349	76.9	15,409	77.0
株式	97	0.5	97	0.5
その他の証券	517	2.8	895	4.5
合計	18,663	100.0	19,997	100.0

(注) 当組合は、商品有価証券を保有していません。

### 貸倒引当金の内訳 (単位：百万円)

項目	令和元年度		令和2年度	
	期末残高	増減額	期末残高	増減額
一般貸倒引当金	9	1	17	7
個別貸倒引当金	601	30	595	△6
貸倒引当金合計	611	31	612	0

(注) 当組合は、特定海外債権を保有していませんので「特定海外債権引当勘定」に係る引当は行っていません。

### 担保種類別貸出金残高及び債務保証見返額 (単位：百万円、%)

区分	金額	構成比	債務保証見返額	
当組合預金積金	令和元年度末	271	0.9	—
	令和2年度末	184	0.5	—
有価証券	令和元年度末	—	—	—
	令和2年度末	—	—	—
動産	令和元年度末	4	0.0	—
	令和2年度末	4	0.0	—
不動産	令和元年度末	6,409	20.5	34
	令和2年度末	6,266	17.8	23
その他	令和元年度末	—	—	—
	令和2年度末	—	—	—
小計	令和元年度末	6,684	21.4	34
	令和2年度末	6,455	18.3	23
信用保証協会・信用保険	令和元年度末	4,837	15.5	—
	令和2年度末	10,372	29.3	—
保証	令和元年度末	18,570	59.3	8
	令和2年度末	17,424	49.3	29
信用	令和元年度末	1,195	3.8	—
	令和2年度末	1,103	3.1	—
合計	令和元年度末	31,288	100.0	42
	令和2年度末	35,356	100.0	53

### 有価証券種類別残存期間別残高 (単位：百万円)

区分	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超	期間の定めのないもの
国債	—	—	1,128	1,874	—
	—	542	1,158	2,745	—
地方債	100	—	—	203	—
	—	—	—	203	—
社債	701	3,054	2,410	8,770	—
	600	4,115	2,016	9,241	—
株式	—	—	—	—	70
	—	—	—	—	83
その他の証券	—	—	—	—	591
	—	—	—	—	1,125
合計	801	3,054	3,538	10,847	662
	600	4,658	3,175	12,190	1,209

(注) 「社債」には、政府保証債、公社公債、事業債が含まれております。

### 貸出金償却額 (単位：百万円)

項目	令和元年度末	令和2年度末
貸出金償却額	—	—

### 貸出金利区分別残高 (単位：百万円)

区分	令和元年度末	令和2年度末
固定金利貸出	18,009	22,264
変動金利貸出	13,278	13,091
合計	31,288	35,356

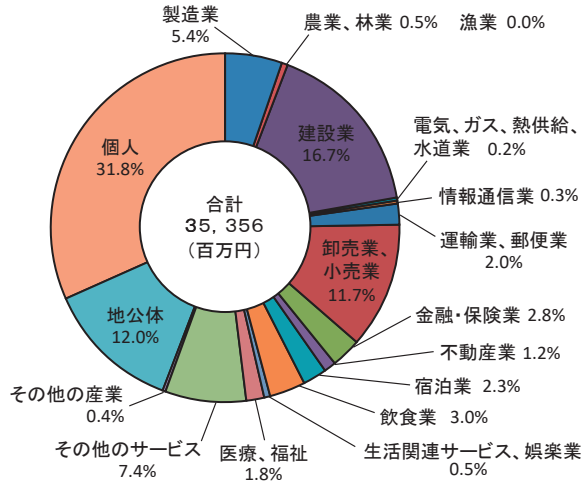
### 消費者ローン・住宅ローン残高 (単位：百万円、%)

区分	令和元年度末		令和2年度末	
	金額	構成比	金額	構成比
消費者ローン	2,215	25.6	2,052	24.6
住宅ローン	6,446	74.4	6,302	75.4
合計	8,664	100.0	8,355	100.0

## 資金運用

## 貸出金業種別残高・構成比

貸出金業種別構成比



## 貸出金使途別残高

(単位：百万円、%)

区 分	令和元年度末		令和2年度末	
	金 額	構成比	金 額	構成比
運 転 資 金	18,959	60.6	24,047	68.0
設 備 資 金	12,328	39.4	11,308	32.0
合 計	31,288	100.0	35,356	100.0

(単位：百万円、%)

業 種 別	令和元年度		令和2年度	
	金 額	構成比	金 額	構成比
製 造 業	1,709	5.5	1,913	5.4
農 業、林 業	201	0.6	190	0.5
漁 業	27	0.1	16	0.0
鉱 業、採 石 業、砂 利 採 取 業	—	—	—	—
建 設 業	4,499	14.4	5,914	16.7
電 気、ガ ス、熱 供 給、水 道 業	70	0.2	63	0.2
情 報 通 信 業	120	0.4	101	0.3
運 輸 業、郵 便 業	500	1.6	708	2.0
卸 売 業、小 売 業	2,959	9.5	4,149	11.7
金 融 業、保 険 業	1,500	4.8	1,000	2.8
不 動 産 業	223	0.7	422	1.2
物 品 賃 貸 業	—	—	—	—
学 術 研 究、専 門・技 術 サ ー ビ ス 業	—	—	—	—
宿 泊 業	729	2.3	801	2.3
飲 食 業	683	2.2	1,061	3.0
生 活 関 連 サ ー ビ ス 業、娯 楽 業	131	0.4	160	0.5
教 育、学 習 支 援 業	—	—	—	—
医 療、福 祉 業	405	1.3	648	1.8
そ の 他 の サ ー ビ ス 業	1,942	6.2	2,605	7.4
そ の 他 の 産 業	160	0.5	128	0.4
小 計	15,858	50.7	19,879	56.2
地 方 公 共 団 体	3,769	12.0	4,221	12.0
個 人 (住 宅・消 費・納 税 資 金 等)	11,661	37.3	11,256	31.8
合 計	31,288	100.0	35,356	100.0

(注) 業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

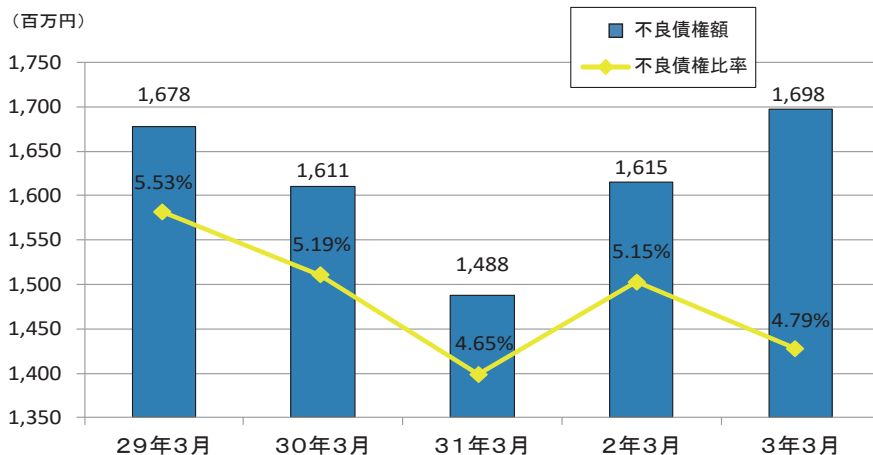




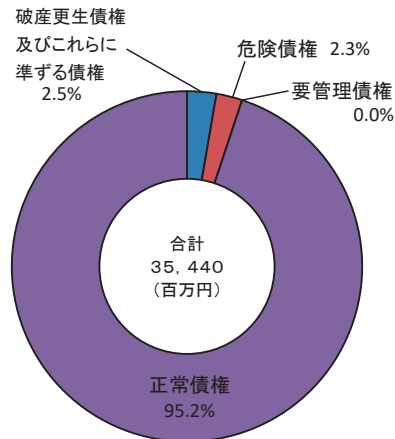
## 経営内容

### 金融再生法開示債権及び同債権に対する保全額

不良債権比率・不良債権額の推移



金融再生法開示債権構成比



(単位：百万円、%)

区 分	債権額 (A)	担保・保証等 (B)	貸倒引当金 (C)	保全額 (D) = (B) + (C)	保全率 (D) / (A)	貸倒引当金引当率 (C) / (A-B)	
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	令和元年度	861	414	447	861	100.0	100.0
	令和2年度	874	437	436	874	100.0	100.0
危険債権	令和元年度	751	596	154	751	100.0	100.0
	令和2年度	824	665	158	824	100.0	100.0
要管理債権	令和元年度	2	2	0	2	100.0	100.0
	令和2年度	—	—	—	—	—	—
不良債権計	令和元年度	1,615	1,013	602	1,615	100.0	100.0
	令和2年度	1,698	1,102	595	1,698	100.0	100.0
正常債権	令和元年度	29,756	—	—	—	—	—
	令和2年度	33,742	—	—	—	—	—
合 計	令和元年度	31,372	—	—	—	—	—
	令和2年度	35,440	—	—	—	—	—

- (注) 1. 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
2. 「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。
3. 「要管理債権」とは、「3か月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する貸出債権です。
4. 「正常債権」とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がない債権で、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外の債権です。
5. 「担保・保証等 (B)」は、自己査定に基づいて計算した担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額の合計額です。
6. 「貸倒引当金 (C)」は、「正常債権」に対する一般貸倒引当金を控除した貸倒引当金です。
7. 金額は決算後 (償却後) の計数です。

### リスク管理債権及び同債権に対する保全額

(単位：百万円、%)

区 分	残 高 (A)	担保・保証額 (B)	貸倒引当金 (C)	保全率 (B + C) / (A)	
破綻先債権	令和元年度	280	226	54	100.0
	令和2年度	292	237	54	100.0
延滞債権	令和元年度	1,332	784	547	100.0
	令和2年度	1,405	864	540	100.0
3か月以上延滞債権	令和元年度	2	2	0	100.0
	令和2年度	—	—	—	—
貸出条件緩和債権	令和元年度	—	—	—	—
	令和2年度	—	—	—	—
合 計	令和元年度	1,615	1,013	601	100.0
	令和2年度	1,697	1,101	595	100.0

- (注) 1. 「破綻先債権」とは、元本又は利息の支払いの遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金 (貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。) のうち、①会社更生法又は、金融機関等の更生手続の特例等に関する法律の規定による更生手続開始の申立てがあった債務者、②民事再生法の規定による再生手続開始の申立てがあった債務者、③破産法の規定による破産手続開始の申立てがあった債務者、④会社法の規定による特別清算開始の申立てがあった債務者、⑤手形交換所の取引停止処分を受けた債務者、等に対する貸出金です。
2. 「延滞債権」とは、上記1. 及び債務者の経営再建又は支援 (以下「経営再建等」という。) を図ることを目的として利息の支払いを猶予したものの以外の未収利息不計上貸出金です。
3. 「3か月以上延滞債権」とは、元本又は利息の支払いが約定支払日の翌日から3か月以上延滞している貸出金 (上記1. 及び2. を除く) です。
4. 「貸出条件緩和債権」とは、債務者の経営再建等を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金 (上記1. ～3. を除く) です。
5. 「担保・保証額 (B)」は、自己査定に基づく担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額です。
6. 「貸倒引当金 (C)」は、リスク管理債権区分の各項目の貸出金に対して引き当てた金額を記載しており、リスク管理債権以外の貸出金等に対する貸倒引当金は含まれておりません。
7. 「保全率 (B + C) / (A)」はリスク管理債権ごとの残高に対し、担保・保証、貸倒引当金を設定している割合です。
8. これらの開示額は、担保処分による回収見込額、保証による回収が可能と認められる額や既に引当てている個別貸倒引当金を控除する前の金額であり、全てが損失となるものではありません。

## 個人情報保護宣言

当組合では、個人情報保護および個人番号（以下「個人情報等」といいます。）の重要性に鑑み、個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）（以下「法」という。）、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成25年5月31日法律第27号）、特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン等の関係法令等（以下「法令等」といいます。）を遵守して以下の考え方にに基づきお客様の個人情報等を厳格に管理し、適正に取り扱うとともに、その正確性・機密保持に努めます。

また、本保護宣言につきましては、その内容を適宜見直し、改善してまいります。

当組合は、本保護宣言を当組合のインターネット上のホームページに掲載し、または、各店舗の窓口等に掲示し、もしくは備え付けることにより、公表します。

### 1. 個人情報等の利用目的

当組合は、法令等に基づき、お客様の個人情報等を別紙の業務内容ならびに利用目的の達成に必要な範囲で利用し、それ以外の目的では法等で認められる場合のほか利用いたしません。

また、個人番号については、法令等で認められている利用目的以外では利用いたしません。

なお、個人情報等の利用目的を変更した場合は直ちに公表いたします。

### 2. 個人情報等の適正な取得について

当組合では、上記1. で特定した利用目的の達成に必要な範囲で、適法かつ適正な手段により、例えば、以下のような情報源から、お客様の個人情報等を取扱いたします。なお、法第2条第3項に定める要配慮個人情報を含む「金融分野における個人情報保護に関するガイドライン」に定める機微情報は、法令等で認められている場合以外は、取得いたしません。

- (1) 預金口座のご新規申込の際にお客様にご記入・ご提出いただく書類等により、直接提供していただいた情報
- (2) 各地手形交換所等の共同利用者や個人信用情報機関等の第三者から提供された情報
- (3) 商品やサービスの提供を通じて、お客様からお聞きした情報

### 3. 個人データの第三者提供

当組合は、法令等で認められている場合を除き、お客様の同意なしにお客様の個人データを第三者へ提供いたしません。但し、個人番号をその内容を含む特定個人情報については、法令等で認められていない限り、お客様の同意があっても、これを第三者に提供いたしません。

### 4. 個人データの委託

当組合は、上記1. の利用目的の範囲内で、例えば、以下のような場合に、個人データおよび個人番号に関する取扱いを外部に委託する場合があります。その場合には、適正な取扱いを確保するための契約締結、実施状況の点検などを行ないます。

- (1) お客様にお送りするための書面の印刷または発送に関わる業務を外部に委託する場合
- (2) 情報システムの運用・保守に関わる業務を外部に委託する場合

### 5. 個人データの共同利用

当組合は、上記1. の利用目的の範囲内で個人データを当組合が別紙に表示する特定の者と共同利用しております。但し、個人番号をその内容を含む特定個人情報については、共同利用をいたしません。

### 6. 個人情報等の安全管理措置に関する方針

当組合では、取扱う個人情報等の漏えい・滅失等の防止その他の個人情報等の安全管理のため、組織的安全管理措置、人的安全管理措置、技術的安全管理措置を講じ、適正に管理します。

また、役職員には必要な教育と監督を、業務委託先に対しては、個人情報等の安全管理が図られるよう必要かつ適切な監督に努めます。

### 7. お客様からの開示、訂正、利用停止等のご請求

#### (1) 開示のご請求

お客様から当組合が保有するご自身に関する個人データの開示のご依頼があった場合には、原則として開示いたします。

#### (2) 訂正等のご請求

お客様から当組合が保有するご自身に関する個人データの訂正等（訂正・追加・削除）のご依頼があった場合には、原則として訂正等いたします。

#### (3) 利用停止等のご請求

お客様から当組合が保有するご自身に関する個人データの利用停止等（利用停止・消去）のご依頼があった場合（法令等に基づく正当な理由による）には、原則として利用停止等いたします。

#### (4) ダイレクトメール等の中止

当組合は、当組合からの商品・サービスのセールスに関するダイレクトメールの送付やお電話等での勧誘のダイレクト・マーケティングで、個人情報を利用することについて、これを中止するようお客様よりお申し出があった場合は、遅滞なく当該目的での個人情報の利用を中止いたします。

なお、(1)、(2)、(3)のご請求に当たっては、個人データの重要性に鑑み、ご請求者（代理人を含む）の本人確認をさせていただきます。ご請求手続の詳細およびご請求用紙が必要な場合は当組合本支店の窓口までお申出ください。

### 8. ご質問・相談・苦情受付窓口

当組合では、お客様からのご質問等に適切に取組んで参りますので、個人情報等の取扱い等に関するご質問等につきましては、以下の窓口にお申出ください。

総務企画部

TEL

0954-62-9966

FAX

0954-62-9967

eメール

saganisi@po.saganet.ne.jp

## 経営内容

### 報酬体系について

#### 対象役員

当組合における報酬体系の開示対象となる「対象役員」は、理事及び監事をいいます。対象役員に対する報酬等は、職務執行の対価として支払う「基本報酬」及び、在任期間中の職務執行及び特別功労の対価として退任時に支払う「退職慰労金」で構成されております。

#### (1) 報酬体系の概要

##### 【基本報酬】

非常勤を含む全役員の基本報酬につきましては、総代会において、理事全員及び監事全員それぞれの支払総額の最高限度額を決定しております。

そのうえで、各理事の基本報酬額につきましては役位や在任年数等を勘案し、当組合の理事会において決定しております。また、各監事の基本報酬額につきましては、監事会において決定しております。

##### 【退職慰労金】

退職慰労金につきましては、在任期間中に每期引当金を計上し、退

任時に総代会で承認を得た後、支払っております。

#### (2) 役員に対する報酬

(単位：百万円)

区分	当期中の報酬支払額	総会等で定められた報酬限度額
理事	43	45
監事	6	9
合計	50	54

注1. 上記は協同組合による金融事業に関する法律施行規則第15条別紙様式第4号「附属明細書」における役員に対する報酬です。

注2. 支払人数は、理事10名、監事2名です。

#### (3) その他

「協同組合による金融事業に関する法律施行規則第69条第1項第6号等の規定に基づき、報酬等に関する事項であって、信用協同組合等の業務の運営又は財産の状況に重要な影響を与えるものとして金融庁長官が別に定めるものを定める件」(平成24年3月29日付金融庁告示第23号)第3条第1項第3号及び第5号に該当する事項はありません。

## 経営内容

### 当組合の苦情処理措置・紛争解決措置等の概要について

当組合では、お客様に、より一層のご満足をいただけるよう、苦情等相談窓口を設け、お取引に係る苦情等を受付けておりますので、お取引のある営業店または、以下の相談窓口にお気軽にお申し出ください。  
※苦情等とは、当組合との取引に関する照会・相談・要望・苦情・紛争のいずれかに該当するもの及びこれらに準ずるものをいいます。

受付窓口	総務企画部（さがにし苦情等相談窓口）
電話番号	0954-62-9966
住所	〒849-1311 佐賀県鹿島市大字高津原 4369-1
受付日	月曜日～金曜日 (土・日・祝日および金融機関の休日を除く)
受付時間	9:00～17:00

東京弁護士会、第一東京弁護士会、第二東京弁護士会または福岡県弁護士会が設置運営する仲裁センター等で紛争の解決を図ることも可能ですので、当組合苦情等相談窓口またはしんくみ相談所へお申し出ください。

また、お客様が直接、仲裁センター等へ申し出ることも可能です。

なお、仲裁センター等では、東京または福岡以外の地域の方々からの申し立てについて、当事者の希望を聞いたうえで、アクセスに便利な地域で手続きを進める方法があります。

苦情等のお申し出は、当信用組合のほか、しんくみ相談所をはじめとする他の機関でも受け付けています（詳しくは、当組合苦情等相談窓口へご相談ください）。

受付窓口	一般社団法人 全国信用組合中央協会 しんくみ相談所
電話番号	03-3567-2456
住所	〒104-0031 東京都中央区京橋 1-9-5 (全国信用組合会館内)
受付日	月曜日～金曜日 (土・日・祝日および金融機関の休日を除く)
受付時間	9:00～17:00

相談所は、公平・中立な立場でお申し出を伺い、お申し出のお客様の了解を得たうえ、当該の信用組合に対し迅速な解決を要請します。

- ①移管調停：東京または福岡以外の弁護士会の仲裁センター等に事件を移管する。
- ②現地調停：東京または福岡の弁護士会の斡旋人と東京または福岡以外の弁護士会の斡旋人が、弁護士会所在地と東京または福岡を結ぶテレビ会議システム等により、共同して解決に当たる。

※移管調停、現地調停は全国の弁護士会で実施している訳ではありませんのでご注意ください。

具体的には仲裁センター等にご照会ください。

名称	東京弁護士会 紛争解決センター	第一東京弁護士会 仲裁センター	第二東京弁護士会 仲裁センター
住所	〒100-0013 東京都千代田区霞ヶ関 1-1-3	〒100-0013 東京都千代田区霞ヶ関 1-1-3	〒100-0013 東京都千代田区霞ヶ関 1-1-3
電話	03-3581-0031	03-3595-8588	03-3581-2249
受付日時間	月～金（除 祝日、年末年始） 9:30～12:00 13:00～15:00	月～金（除 祝日、年末年始） 10:00～12:00 13:00～16:00	月～金（除 祝日、年末年始） 9:30～12:00 13:00～17:00

名称	福岡県弁護士会 天神弁護士センター	福岡県弁護士会 北九州法律相談センター	福岡県弁護士会 久留米センター
住所	〒810-0004 福岡市中央区渡辺通 5-14-12	〒803-0816 北九州市小倉北区金田 1-4-2	〒830-0021 久留米市篠山町 11-5
電話	092-741-3208	093-561-0360	0942-30-0144
受付日時間	月～金（除 祝日、年末年始） 10:00～19:00 土・日・祝 10:00～13:00	月～金（除 祝日、年末年始） 9:30～12:30 13:30～15:30	月～金（除 祝日、年末年始） 10:00～11:30 13:00～16:00

当組合は、お客様からのお申し出について、以下のとおり金融 ADR 制度も踏まえ、内部管理態勢等を整備して迅速・公平・適切な対応を図り、もって当組合に対するお客様の信頼の向上に努めます。

1. お客様からの苦情等については、本支店またはさがにし苦情等相談窓口で受け付けます。
2. お申し出いただいた苦情等は、事情・事実関係を調査するとともに、必要に応じ関係部署との連携を図り、公正・迅速・誠実に対応し、解決に努めます。
3. 苦情等の受付・対応に当たっては、個人情報保護に関する法律やガイドライン等に沿い、適切に取り扱いたします。
4. お客様からの苦情等のお申し出は、しんくみ相談所をはじめとする他の機関でも受け付けていますので、内容やご要望等に応じて適切な機関をご紹介します、その標準的な手続等の情報を提供します。

5. 紛争解決を図るため、弁護士会が設置運営する仲裁センター等を利用することとします。
6. 顧客サポート等に係る情報の集約、苦情等に対する対応の進捗状況および処理指示については、総務企画部が一元的に管理します。
7. 反社会的勢力による苦情等を装った圧力に対しては、規程等に基づき、必要に応じ警察等関係機関との連携をとった上、断固たる対応をとります。
8. 苦情等に対応するため、研修等により関連規程等に基づき業務が運営されるよう、組合内に周知・徹底を図ります。
9. 苦情等の内容について分析し、調査を行った苦情等の発生原因を把握した上、苦情等の再発防止、未然防止に向けた取組みを不断に行います。

## 経営内容

### 統合的リスク管理態勢

統合的リスク管理とは、当組合の業務に内在する各リスクについて、これを一元的に管理し、総体的に捉えてその総体的なリスクを当組合の経営体力（自己資本）と比較・対照し経営体力（自己資本）の範囲内に抑制することです。

具体的には、自己資本が潜在損失への備えであることを踏まえ、信用リスク、市場リスク、オペレーショナル・リスク等が全て顕在化した場合でも十分な経営体力（自己資本）を維持できるか管理することになります。

当組合では、リスク管理委員会のもと統合的リスク管理の充実を目指して「統合的リスク管理方針」及び「統合的リスク管理規程」を制定し、各々のリスク管理所管部署を定めるとともに、リスク管理統括部署を設置して主要リスクの把握及び適正なリスク管理に努め、業務の健全性の確保に取り組んでいます。

### リスク管理体制

#### — 定 性 的 事 項 —

- ・自己資本調達手段の概要
- ・自己資本の充実度に関する評価方法の概要
- ・信用リスクに関する事項
- ・信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続の概要
- ・派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関するリスク管理の方針及び手続の概要…該当事項なし
- ・証券化エクスポージャーに関する事項
- ・オペレーショナル・リスクに関する事項
- ・協同組合による金融事業に関する法律施行令（昭和五十七年政令第四十四号）第三条第五項第三号に規定する出資その他これに類するエクスポージャー又は株式等エクスポージャーに関するリスク管理の方針及び手続の概要
- ・金利リスクに関する事項

#### ●自己資本調達手段の概要（令和2年度末現在）

発行主体	佐賀西信用組合
資本調達手段の種類	普通出資
コア資本に係る基礎項目の額に算入された額	255百万円

自己資本につきましては、当組合が内部留保として積み立てているものと、地域のお客様による出資金にて調達しております。

#### ●自己資本の充実度に関する評価方法の概要

自己資本の充実度に関しましては、自己資本比率はもちろんのことTeir1比率の状況についても、国内基準である4%を大きく上回っており、経営の健全性・安全性を充分保っております。

また、当組合は、各エクスポージャーが一分野に集中することなくリスク分散が図られていると評価しております。さらに、繰延税金資産につきましては、自己資本に占める割合も逡減しており、ほとんど依存しておりません。

#### ●信用リスクに関する事項

リスクの説明	信用リスクとは、取引先の経営悪化や倒産などにより、貸出金などの元本や利息が回収できなくなることによって損失を被るリスクです。
リスク管理の方針および管理体制	自己査定債務者区分および分類結果に基づいてリスクを適正に把握し、適正なポートフォリオ管理等に反映させることをリスク管理の基本方針としております。 信用リスクを当組合が管理すべき最重要リスクであるとの認識の上、与信業務の基本的な理念や手続き等を明示した「クレジット・ポリシー」を制定し、信用リスクを確実に認識する管理態勢を構築しています。
評価・計測	信用リスクの評価につきましては、信用格付制度を導入し、また、厳格な自己査定を実施しております。 また、毎月開催しているリスク管理委員会で協議検討を行うとともに、定期的あるいは必要に応じて経営陣に対する報告態勢を整備しております。

#### ■貸倒引当金の計算基準

貸倒引当金は、「自己査定基準」及び「償却・引当に関する規程」に基づき、自己査定における債務者区分ごとに算出しております。一般貸倒引当金にあたる正常先、その他の要注意先、要管理先については、債務者区分ごとの債務額にそれぞれの貸倒実績率に基づいた予想損失率を乗じて算出しております。また、個別貸倒引当金の破綻懸念先については、未保全額とキャッシュフローによる回収可能性を控除した額を予想損失額として算出しており、実質破綻先及び破綻先は、未保全額を予想損失額として算出しております。

なお、それぞれの結果については、監査法人の監査を受けるなど、適正な計上に努めております。

#### ■リスク・ウェイトの判定に使用する適合格付機関等の名称

リスク・ウェイトの判定に使用している適合格付機関は以下の4つの機関を採用しております。

- ・株式会社日本格付研究所（JCR）
- ・株式会社格付投資情報センター（R & I）
- ・ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク（Moody's）
- ・スタンダード・アンド・プアーズ・レーティングズ・サービス（S & P）

## 経営内容

### ■エクスポージャーの種類ごとのリスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関等の名称

エクスポージャーの種類ごとのリスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関はありません。

### ■信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続の概要

バーゼルⅡにおける信用リスク削減手法として、当組合が扱う主要な担保には、預金積金や上場株式等があり、担保に関する手続については、「事務取扱要領」等により、適切な取扱いに努めております。

また、お客様が期限の利益を失われた場合には、全ての与信取引の範囲において、預金相殺等をする場合がありますが、当組合が定める「事務取扱要領」等により、適切な取扱いに努めております。

なお、信用リスク削減手法の適用に伴う信用リスクの集中に関しては、特に業種やエクスポージャーの種類に偏ることなく分散されております。

### ■派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関するリスク管理の方針及び手続の概要

該当事項なし

### ●証券化エクスポージャーに関する事項

該当事項なし

### ●オペレーショナル・リスクに関する事項

リスクの説明	オペレーショナルリスクとは、当組合の業務の過程、役職員の活動もしくはシステムが不適切であること、または外生的な事象により当組合が損失を被るリスク及び当組合自らが「オペレーショナルリスク」と定義したリスクのことです。
リスク管理の方針および管理体制	特に、事務リスク管理については、本部・営業店が一体となり「事務リスク管理規程」に基づき、日頃の事務指導や研修体制の強化、さらには牽制機能としての事務検証などに取組み、事務品質の向上に努めております。 システムリスクについては、「システムリスクマニュアル」に基づき、管理すべきリスクの所在、種類等を明確にし、定期的な点検検査、さらにはシステム監査を実施し、安定した業務遂行ができるよう多様化かつ複雑化するリスクに対して、管理態勢の強化に努めております。 その他のリスクについては、苦情相談窓口の設置による苦情に対する適切な処理、個人情報および情報セキュリティポリシーの整備、さらには各種商品に対する説明態勢の整備など、顧客保護の観点を重要視した管理体制整備に努めております。
評価・計測	リスクの計測に関しましては、基礎的手法を採用しております。
<b>■オペレーショナル・リスク相当額の算出に使用する手法の名称</b>	
当組合は、基礎的手法を採用しております。	

### ●出資その他これに類するエクスポージャー又は株式等エクスポージャーに関するリスク管理の方針及び手続の概要に関する事項

リスクの説明	当組合における出資その他これに類するエクスポージャー又は株式等エクスポージャーにあたるものは、上場株式、非上場株式、および出資金が該当します。
リスク管理の方針および管理体制	上場株式においては、時価評価等によりリスク計測を行っており、リスク管理委員会で協議するなど適切なリスク管理に努めております。 非上場株式に関しては、「有価証券運用規程」に基づき、適正な運用・管理を行っており、出資金に関しては、「自己査定基準」に基づき、適正な運用・管理を行っております。 また、リスクの状況は、財務諸表等を基にした評価による定期的なモニタリングを実施しており、その状況については、経営陣への報告を行うなど、適正なリスク管理につとめております。
評価・計測	当該取引にかかる会計処理については、日本公認会計士協会の「金融商品会計に関する実務指針」に従った適正な処理を行っております。

### ●金利リスクに関する事項

リスクの説明	金利リスクとは、金利または期間のミスマッチや金利の変動により利益が減少または損失が発生するリスクです。
リスク管理の方針および管理体制	「市場リスク管理規程」に基づき、リスク管理委員会をミドルオフィス（リスク管理担当）とし、フロントオフィス（運用担当）及びバックオフィス（事務管理担当）を分離し、常勤理事会・監査部にて牽制機能を図っております。 また、市場の急変動や不測の事態が発生した時は、市場動向・損失状況を速やかに担当役員に報告する体制を整備しております。
評価・計測	リスクの計測は、ギャップ分析を用い、金利リスクを算出し、必要に応じて経営陣へ報告を行うなど、資産・負債の最適化に向けたリスク・コントロールに努めております。

### ●金利リスクの算定手法の概要

<b>計測対象とした資産・負債</b>	
貸出金・有価証券・預け金・預金・借入金など金利・期間を有する資産・負債	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・流動性預金に割り当てられた金利改定の平均満期 1.25年</li> <li>・流動性預金に割り当てられた最長の金利改定満期 5年</li> <li>・コア預金およびその前提 金融庁告示の保守的な前提の反映により考慮</li> <li>・コア預金に割り当てられた金利改定の平均満期 2.5年</li> <li>・固定金利貸出の期限前返済や定期預金の早期解約に関する前提 考慮しておりません。</li> <li>・複数の通貨の集計方法およびその前提 1通貨円のみであり、それ以外の通貨は保有しておりません。</li> <li>・スプレットに関する前提 考慮しておりません。</li> <li>・内部モデルの使用等、重大な影響を及ぼすその他の前提 内部モデルは使用しておりません。</li> </ul>	

# 経営内容

## 資料編

### リスク管理体制

#### — 定量的事項 —

- ・自己資本の構成に関する開示事項…自己資本の充実の状況 P.11をご参照ください
- ・自己資本の充実度に関する事項
- ・信用リスク（リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー及び証券化エクスポージャーを除く。）に関する事項
- ・信用リスク削減手法に関する事項
- ・派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項…該当事項なし
- ・証券化エクスポージャーに関する事項
- ・出資等エクスポージャーに関する事項
- ・リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに関する事項…該当事項なし
- ・金利リスクに関する事項…P.25をご参照ください

#### ●自己資本の充実度に関する事項

(単位：百万円)

	令和元年度		令和2年度	
	リスク・アセット	所要自己資本額	リスク・アセット	所要自己資本額
イ. 信用リスク・アセット、所要自己資本の額合計	31,556	1,262	32,433	1,297
① 標準的手法が適用されるポートフォリオごとのエクスポージャー	31,556	1,262	32,433	1,297
(i) ソブリン向け	50	2	50	2
(ii) 金融機関向け	4,874	194	5,022	200
(iii) 法人等向け	15,752	630	15,426	617
(iv) 中小企業等・個人向け	4,993	199	4,887	195
(v) 抵当権付住宅ローン	2,253	90	2,200	88
(vi) 不動産取得等事業向け	560	22	819	32
(vii) 三月以上延滞等	658	26	657	26
(viii) 出資等	665	26	1,097	43
出資等のエクスポージャー	665	26	1,097	43
重要な出資のエクスポージャー	—	—	—	—
(ix) 他の金融機関等の対象資本等調達手段のうち対象普通出資等及びその他外部 TLAC 関連調達手段に該当するもの以外のものに係るエクスポージャー	722	28	—	—
(x) 信用協同組合連合会の対象普通出資等であってコア資本に係る調整項目の額に算入されなかった部分に係るエクスポージャー	567	22	567	22
(xi) その他	458	18	1,703	68
② 証券化エクスポージャー	—	—	—	—
③ リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー	—	—	—	—
ルック・スルー方式	—	—	—	—
マンドート方式	—	—	—	—
蓋然性方式 (250%)	—	—	—	—
蓋然性方式 (400%)	—	—	—	—
フォールバック方式 (1,250%)	—	—	—	—
④ 経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	—	—	—	—
⑤ 他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額	—	—	—	—
⑥ CVA リスク相当額を8%で除して得た額	—	—	—	—
⑦ 中央清算機関関連エクスポージャー	—	—	—	—
ロ. オペレーショナル・リスク	1,792	71	1,795	71
ハ. 単体総所要自己資本額 (イ+ロ)	33,349	1,333	34,229	1,369

- (注) 1. 所要自己資本の額=リスク・アセットの額×4%
2. 「エクスポージャー」とは、資産（派生商品取引によるものを除く）並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額です。
3. 「ソブリン」とは、中央政府、中央銀行、地方公共団体、地方公共団体金融機構、我が国の政府関係機関、土地開発公社、地方住宅供給公社、地方道路公社、外国の中央政府以外の公共部門（当該国内においてソブリン扱いになっているもの）、国際開発銀行、国際決済銀行、国際通貨基金、欧州中央銀行、信用保証協会等のことです。
4. 「三月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3か月以上延滞している債務者に係るエクスポージャー及び「ソブリン向け」、「金融機関及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」においてリスク・ウェイトが150%になったエクスポージャーのことで、
5. 「その他」とは、(i)～(x)に区分されないエクスポージャーです。具体的には「出資等」、「取立未済手形」が含まれます。
6. オペレーショナル・リスクは、当組合は基礎的手法を採用しています。

〈オペレーショナル・リスク（基礎的手法）の算定方法〉

$$\frac{\text{粗利益（直近3年間のうち正の値の合計額）} \times 15\%}{\text{直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数}} \div 8\%$$

7. 単体総所要自己資本額=単体自己資本比率の分母の額×4%

## 経営内容

### 信用リスクに関する事項(リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー及び証券化エクスポージャーを除く)

#### ●信用リスクに関するエクスポージャー及び主な種類別の期末残高(業種別・残存期間別)

(単位:百万円)

業種区分 期間区分	信用リスクエクスポージャー期末残高								三月以上延滞 エクスポージャー	
			貸出金、コミットメント及び その他のデリバティブ以外 のオフ・バランス取引		債 券		デリバティブ取引			
	令和元年度	令和2年度	令和元年度	令和2年度	令和元年度	令和2年度	令和元年度	令和2年度	令和元年度	令和2年度
製 造 業	4,054	4,945	1,708	1,912	2,412	3,101	—	—	6	2
農 業、林 業	191	180	200	190	—	—	—	—	13	13
漁 業	26	15	26	15	—	—	—	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
建 設 業	4,500	5,928	4,519	5,913	—	—	—	—	17	10
電気・ガス・熱供給・水道業	1,487	1,975	70	63	1,416	1,912	—	—	—	—
情 報 通 信 業	2,604	2,620	119	101	2,464	2,518	—	—	—	—
運 輸 業、郵 便 業	3,013	3,176	513	707	2,500	2,460	—	—	—	—
卸 売 業、小 売 業	4,782	5,950	2,959	4,149	1,828	1,803	—	—	1	1
金 融 業、保 険 業	23,267	25,066	1,500	1,000	1,077	886	—	—	—	—
不 動 産 業	3,231	4,112	222	422	3,008	3,690	—	—	—	—
物 品 賃 貸 業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
学術研究、専門・技術サービス業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
宿 泊 業	348	425	728	801	—	—	—	—	521	518
飲 食 業	652	1,029	683	1,060	—	—	—	—	28	24
生活関連サービス業、娯楽業	85	112	130	159	—	—	—	—	—	—
教育、学習支援業	39	101	39	101	—	—	—	—	—	—
医 療、福 祉	404	647	404	647	—	—	—	—	—	—
その他のサービス	1,911	2,506	1,902	2,504	1	1	—	—	222	221
その他の産業	160	128	160	128	—	—	—	—	—	—
国・地方公共団体等	7,987	9,130	3,769	4,220	4,217	4,909	—	—	—	—
個 人	11,677	11,260	11,681	11,272	—	—	—	—	14	26
そ の 他	1,365	1,465	—	—	—	—	—	—	—	—
<b>業 種 別 合 計</b>	<b>71,791</b>	<b>80,779</b>	<b>31,343</b>	<b>35,373</b>	<b>18,946</b>	<b>21,285</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>826</b>	<b>818</b>
1 年 以 下	26,241	28,372	8,483	7,784	803	600	—	—		
1 年 超 3 年 以 下	9,366	9,917	8,517	8,874	801	1,000	—	—		
3 年 超 5 年 以 下	6,752	9,184	4,493	5,597	2,258	3,586	—	—		
5 年 超 7 年 以 下	5,169	6,338	2,626	4,429	2,543	1,908	—	—		
7 年 超 10 年 以 下	3,623	5,632	2,622	4,526	1,000	1,106	—	—		
10 年 超	14,985	15,668	4,112	3,681	10,873	11,986	—	—		
期間の定めのないもの	5,651	5,664	487	479	665	1,096	—	—		
そ の 他	—	—	—	—	—	—	—	—		
<b>残 存 期 間 別 合 計</b>	<b>71,791</b>	<b>80,779</b>	<b>31,343</b>	<b>35,373</b>	<b>18,946</b>	<b>21,285</b>	<b>—</b>	<b>—</b>		

(注) 1. 「貸出金、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランス取引」とは、貸出金の期末残高の他、当座貸越等のコミットメントの与信相当額、デリバティブ取引を除くオフ・バランス取引の与信相当額の合計額です。

2. 「三月以上延滞エクスポージャー」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3か月以上延滞している者に係るエクスポージャーのことであり、

3. 上記の「その他」は、裏付となる個々の資産の全部又は一部を把握することや、業種区分に分類することが、困難なエクスポージャーです。具体的には現金、固定資産等が含まれます。

4. CVAリスクおよび中央清算機関関連エクスポージャーは含まれておりません。

5. 業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

#### ●一般貸倒引当金、個別貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額

当組合では、自己資本比率算定にあたり、投資損失引当金・偶発損失引当金を一般貸倒引当金あるいは個別貸倒引当金と同様のものとして取扱っておりますが、P.15の「一般貸倒引当金、個別貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額」及び次頁の「業種別の個別貸倒引当金及び貸出金償却の残高等」には当該引当金の金額は含めておりません。



## 経営内容

### 業種別の個別貸倒引当金及び貸出金償却の残高等

#### ●業種別の個別貸倒引当金及び貸出金償却の額等

(単位：百万円)

業種別	個別貸倒引当金										貸出金償却	
	期首残高		当期増加額		当期減少額				期末残高			
					目的使用		その他					
	令和元年度	令和2年度	令和元年度	令和2年度	令和元年度	令和2年度	令和元年度	令和2年度	令和元年度	令和2年度	令和元年度	令和2年度
製造業	62	66	5	14	0	—	0	12	66	68	—	—
農業、林業	—	9	9	—	—	—	—	—	9	9	—	—
漁業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
建設業	21	19	0	1	—	—	1	3	19	18	—	—
電気、ガス、熱供給、水道業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
情報通信業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
運輸業、郵便業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
卸売業、小売業	2	4	2	—	—	—	0	2	4	2	—	—
金融業、保険業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
不動産業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
物品賃貸業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
学術研究、専門・技術サービス業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
宿泊業	382	379	—	—	—	—	2	4	379	375	—	—
飲食業	17	31	14	1	—	—	0	1	31	30	—	—
生活関連サービス業、娯楽業	39	45	7	2	1	—	0	—	45	47	—	—
教育、学習支援業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
医療、福祉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他のサービス	41	39	—	—	—	—	1	4	39	35	—	—
その他の産業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
国・地方公共団体等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
個人	5	4	—	3	—	—	0	0	4	6	—	—
合計	571	601	38	22	1	—	6	29	601	595	—	—

(注) 1. 当組合は、国内の限定されたエリアにて事業活動を行っているため、「地域別」の区分は省略しております。

2. 業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

#### ●リスク・ウェイトの区分ごとのエクスポージャーの額等

(単位：百万円)

告示で定めるリスク・ウェイト区分 (%)	エクスポージャーの額			
	令和元年度		令和2年度	
	格付適用有り	格付適用無し	格付適用有り	格付適用無し
0%	—	8,309	—	13,626
10%	—	4,162	—	5,581
20%	1,101	20,123	1,101	22,614
35%	—	6,438	—	6,287
50%	8,936	574	9,289	565
75%	—	7,314	—	7,548
100%	5,399	8,480	5,888	7,907
150%	—	243	—	242
250%	—	—	—	—
1,250%	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
合計	15,436	55,647	16,280	64,372

(注) 1. 格付は、適格格付機関が付与しているものに限りま。

2. エクスポージャーは、信用リスク削減手法適用後のリスク・ウェイトに区分しています。

3. コア資本に係る調整項目となったエクスポージャー（経過措置による不算入分を除く）、CVAリスクおよび中央清算機関関連エクスポージャーは含まれておりません。

### 信用リスク削減手法に関する事項

#### ●信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー

(単位：百万円)

ポートフォリオ	信用リスク削減手法	適格金融資産担保		保証		クレジット・デリバティブ	
		令和元年度	令和2年度	令和元年度	令和2年度	令和元年度	令和2年度
信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー		261	176	—	—	—	—

(注) 1. 当組合は、適格金融資産担保について簡便手法を用いています。

2. 上記「保証」には、告示（平成18年金融庁告示第22号）第45条（信用保証協会、農業信用基金協会、漁業信用基金協会により保証されたエクスポージャー）、第46条（株式会社地域経済活性化支援機構等により保証されたエクスポージャー）を含みません。



## 経営内容

### 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

該当事項なし

### 証券化エクスポージャーに関する事項

#### ●オリジネーターの場合

該当事項なし

#### ●投資家の場合

① 保有する証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳

該当事項なし

② 保有する証券化エクスポージャーの適切な数のリスク・ウェイトの区分ごとの残高及び所要自己資本の額等

該当事項なし

③ 証券化エクスポージャーに関する経過措置の適用により算出される信用リスク・アセットの額

該当事項なし

### 出資等エクスポージャーに関する事項

#### ●貸借対照表計上額及び時価等

(単位：百万円)

区 分	令和元年度		令和2年度	
	貸借対照表計上額	時 価	貸借対照表計上額	時 価
上 場 株 式 等	635	635	1,079	1,226
非 上 場 株 式 等	595	—	595	—
合 計	1,230	635	1,674	1,226

(注) 投資信託等の複数の資産を裏付とするエクスポージャー（いわゆるファンド）のうち、上場・非上場の確認が困難なエクスポージャーについては、非上場株式等に含めて記載しています。

#### ●貸借対照表で認識され、かつ、損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位：百万円)

	令和元年度	令和2年度
評 価 損 益	△ 138	104

(注) 「貸借対照表で認識され、かつ、損益計算書で認識されない評価損益の額」とは、その他有価証券の評価損益です。

#### ●金利リスクに関する事項

(単位：百万円)

IRRBB1：金利リスク		イ		ロ		ハ		ニ	
項番		△EVE				△NII			
		当期末		前期末		当期末		前期末	
1	上方パラレルシフト	3,122		2,787		73		37	
2	下方パラレルシフト	0		0		0		0	
3	スティープ化	2,641		2,443					
4	フラット化								
5	短期金利上昇								
6	短期金利低下								
7	最大値	3,122		2,787		73		37	
		ホ				ヘ			
		当期末				前期末			
8	自己資本の額	6,494				6,452			

(注) 金利リスクの算定手法の概要等は、「定性的な開示事項」の項目に記載しております。

## 証券業務

## 公共債窓販実績

(単位：百万円)

項目	令和元年度	令和2年度
国債・その他公共債	—	—

## その他業務

## 内国為替取扱実績

(単位：百万円)

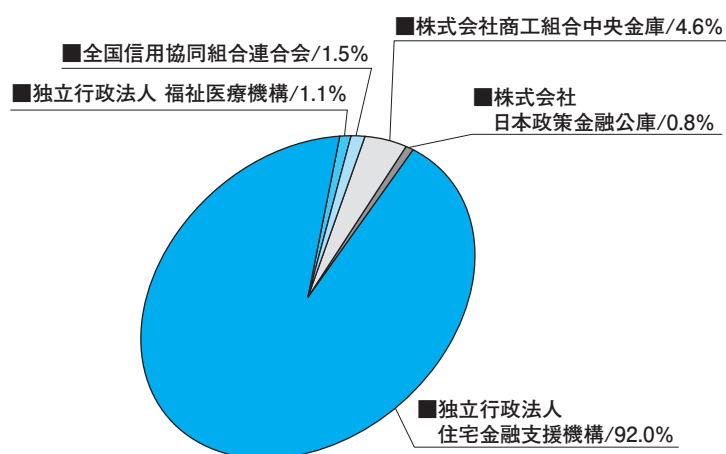
区分	令和元年度末		令和2年度末		
	件数	金額	件数	金額	
送金・振込	他の金融機関向け	26,738	20,837	29,493	23,200
	他の金融機関から	58,645	28,757	62,467	31,942
代金取立	他の金融機関向け	170	126	136	106
	他の金融機関から	304	282	262	250

## 代理貸付残高の内訳

(単位：百万円)

区分	令和元年度末	令和2年度末
全国信用協同組合連合会	3	3
株式会社商工組合中央金庫	17	10
株式会社日本政策金融公庫	2	1
独立行政法人住宅金融支援機構	244	206
独立行政法人勤労者退職金共済機構	—	—
独立行政法人福祉医療機構	3	2
その他	—	—
合計	271	223

## 令和2年度末公庫・事業団等別貸出残高構成比



## ■主要な事業の内容

## A. 預金業務

## (イ) 預金

当座預金、普通預金、通知預金、定期預金、定期積金、別段預金、納税準備預金を取扱っております。

## (ロ) 譲渡性預金

譲渡可能な定期預金を取扱っております。

## B. 貸出業務

## (イ) 貸付

手形貸付、証書貸付及び当座貸越を取扱っております。

## (ロ) 手形の割引

商業手形の割引を取扱っております。

## C. 商品有価証券売買業務

取扱っておりません。

## D. 有価証券投資業務

預金の支払準備及び資金運用のため国債、地方債、社債、株式、その他の証券に投資しております。

## E. 内国為替業務

送金為替、当座振込及び代金取立等を取扱っております。

## F. 外国為替業務

取扱っておりません。

## G. 国債窓販業務

個人向け国債の募集の取り扱いを行っております。

## H. 社債受託及び登録業務

取扱っておりません。

## I. 金融先物取引等の受託等業務

取扱っておりません。

## J. 付帯業務

## (イ) 債務の保証業務

## (ロ) 有価証券の貸付業務

## (ハ) 国債等の引受け業務

## (ニ) 代理業務

(a) 全国信用協同組合連合会、(株)日本政策金融公庫、(株)商工組合中央金庫等の代理貸付業務

(b) 独立行政法人勤労者退職金共済機構等の代理店業務

## (ホ) 地方公共団体の公金取扱業務

## (ヘ) 株式払込金の受入代理業務

## (ト) 保護預り業務

(フ) 独立行政法人住宅金融支援機構（旧住宅金融公庫）（含む独立行政法人福祉医療機構）の業務取扱

その他業務

手数料一覧

(令和3年3月31日現在)

種		類	料	金
振込	当組合 本支店	自店宛	5万円未満	220円
			5万円以上	440円
	他行	他店宛	5万円未満	330円
			5万円以上	550円
		電信扱	5万円未満	660円
			5万円以上	880円
文書扱	5万円未満	550円		
	5万円以上	770円		
ATM(カード)振込	当組合 カード	自店宛	1件につき	110円
		他店宛	5万円未満	110円
			5万円以上	220円
		他金融 機関	5万円未満	440円
	5万円以上		660円	
	他金融 機関 カード	自店宛	5万円未満	220円
			5万円以上	440円
		他店宛	5万円未満	330円
			5万円以上	550円
	他金融 機関	5万円未満	660円	
		5万円以上	880円	
	送金	他行	電信扱	
普通扱(送金小切手)				660円
代金取立	当組合本支店宛			440円
	他行	同地手形		440円
		同地以外手形		880円
		個別取立手形		880円
		個別取立手形至急扱		1,100円
その他	振込・送金・取立手形の組戻料			1,100円
	不渡手形返却料			
	取立手形店頭呈示料			
窓口両替手数料	1 ~ 50枚			無料
	51 ~ 200枚			220円
	201 ~ 400枚			440円
	401 ~ 600枚			660円
	601 ~ 800枚			880円
	801 ~ 1,000枚			1,100円
	1,001枚以上			1,650円
	(500枚ごとに)			550円追加
大量硬貨入金手数料	1 ~ 500枚			無料
	501 ~ 1,000枚			330円
	1,001 ~ 2,000枚			660円
	2,001枚以上			990円
	(1,000枚ごとに)			330円追加
種		類	料	金
当座預金	小切手帳	1冊(50枚)		660円
		約束手形帳	1冊(50枚)	880円
	マル専口座取扱手数料	(割賦販売通知書1枚)		3,300円
	マル専手形	(1枚につき)		550円
自己宛小切手発行(依頼による場合だけ)		1枚		550円
通帳証書等再発行				1,100円
カード再発行				1,100円
証明書発行手数料	残高証明書	1通		550円
		融資証明書	1通	11,000円
さがにしビジネスローン「アシスト」事務手数料		1件		11,000円
CD・ATM手数料(払戻1回につき)		当組合カード	全国無料化提携 信用組合発行カード	その他 (セブ銀行を除く)
平日18時まで(土曜14時まで)		無	料	110円
平日18時以降(土曜14時以降)		110円	220円	220円

(上記の手数料には消費税を含んでいます)

- (注) 1. 窓口両替手数料の取扱枚数は、両替前、両替後のいずれか多い方の枚数とする。
2. 大量硬貨入金手数料において、1日に複数回の取引の場合や伝票・振込依頼書等を複数に分けての取引の場合は合計枚数での手数料を徴求する。
3. 大量硬貨入金手数料において、得意先係が店舗外で預かる場合も窓口と同様とする。

でんさいネット

(令和3年3月31日現在)

種		類	料		金	
			当組合 あてのもの	他金融機関 あてのもの		
当組合で 代行処理 するもの	基本料(月額)		無		料	
	入金手数料(取立手数料)		無		料	
	1か月分を まとめて翌月 徴収	記録請求	発生記録 (債務者請求方式)請求	330円		660円
			発生記録 (債権者請求方式)請求	330円		660円
		譲渡記録請求	330円		660円	
		譲渡・分割記録請求	330円		660円	
		変更記録請求			330円	
		保証記録請求			220円	
		支払等記録請求			660円	
	通常開示請求 (情報提供、記録事項)				550円	
	割引にともなう譲渡記録 (分割含む)				330円	
	依頼するもの でんさいセン ターへ	受付の都度 徴収	でんさい割引買戻し請求依頼			1,430円
口座間送金決済中止依頼					1,430円	
特例開示請求					3,300円	
支払不能情報照会請求					3,300円	
支払不能処分調査請求					3,300円	
残高証明書発行請求				4,400円		
その他でんさいセンターへ書面 を郵送し処理依頼するもの				1,430円		
記録請求に係る承諾・否認・取消			無		料	

## その他業務

### 財務諸表の適正性及び内部監査の有効性

私は当組合の令和2年4月1日から令和3年3月31日までの第68期の事業年度における貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分計算書（又は損失金処理計算書）の適正性、及び同書類作成に係る内部監査の有効性を確認いたしました。

令和3年7月15日

佐賀西信用組合  
理事長 井上 英夫

### 法定監査の状況

当信用組合は、協同組合による金融事業に関する法律第5条の8第3項に規定する「特定信用組合」に該当しておりますので、「貸借対照表」「損益計算書」「剰余金処分計算書」等につきましては、会計監査人である「有限責任監査法人トーマツ」の監査を受けております。

## 地域貢献

### 地域に貢献する信用組合の経営姿勢

当組合は、佐賀県南西部の4市5町を営業地域とし、地元の中小零細事業者や住民が組合員となって、お互いに助け合い、発展していくという相互扶助の理念に基づき運営されている協同組織金融機関です。

中小零細事業者や住民一人ひとりの顔が見えるキメ細かな取引を基本とし

ており、常に地域の事業の発展や生活の質の向上に貢献することを、活動の基本としております。

また、地域社会の一員として、当組合の経営資源を活用し、地域社会の生活の質や文化の向上に積極的に取り組んでおります。

### 融資を通じた地域貢献

#### (1) 貸出先数

個人	2,935先	11,256百万円
事業者	581先	4,393百万円
法人	434先	15,485百万円
地公体	10先	4,220百万円

#### (2) 地方自治体の制度融資

県制度融資	724件	9,617百万円
市・町育成資金	180件	350百万円
鹿島市	43件	125百万円
太良町	15件	24百万円
嬉野市	53件	99百万円
武雄市	10件	11百万円
伊万里市	9件	14百万円
白石町	32件	44百万円
有田町	18件	29百万円
合計	180件	350百万円

#### (3) 当組合の融資商品の概要と実績

当組合では、お客様の資金ニーズにお応えするため、住宅ローン、教育ローン、オートローン、フリーローン、シンプルワイドローン、シルバーライフローン、パートナーズ、ビジネスフリーローン、エコサポートローン及びカードローンを発売しております。令和3年3月末日現在、3,263件8,355百万円のご利用をいただいております。

住宅ローン	615件	6,302百万円
教育ローン	117件	109百万円
オートローン	153件	154百万円
フリーローン	757件	704百万円
シンプルワイドローン	572件	650百万円
シルバーライフローン	30件	8百万円
ビジネスフリーローン	140件	162百万円
エコサポートローン	5件	1百万円
カードローン	874件	259百万円

### 取引先への支援状況等

- 本部と営業店が一体となって、経営改善支援が必要と判断された事業先に対し、支援及び助言・指導の支援に取り組んでいます。
- 事業再生支援先として、お取引先に対し、佐賀県中小企業再生支援協議会指導のもと、当組合、佐賀県信用保証協会及び(株)日本政策金融公庫が協調支援

を行い、企業再生に取り組んでいます。

- 営業店ロビーに事業先のパンフレットを置き、お客様に紹介しております。
- 創業・新事業支援のため商工会議所と連携を密にして取り組んでおり、令和2年度は5先の支援を行いました。

### 地域・業域・職域サービスの充実

#### 店舗・ATM等の設置数

地域内に本店営業部を含め10店舗で営業、ATM合計10台設置。

#### ATM・CDの提携

他金融機関（セブン銀行含む）との間に相互利用契約を結んでおり、他金融機関のATMでもキャッシュカードでの引き出しができます。

なお、セブン銀行、ゆうちょ銀行の他、一部の提携金融機関のATMでは、入金も可能です。

セブン銀行のATMでは1年中利用できるようになりました。

#### 通帳・カード等盗難・紛失時の24時間受付

電話番号 047-498-0151

#### 苦情相談窓口の設置

お客様からのご要望にお応えするため「お客様相談窓口」を本部（総務企画部）に設置し、相談・苦情等の受付体制を整備いたしております。

電話番号 0954-62-9966（総務企画部）

メールアドレス saganisi@po.saganet.ne.jp

受付時間 平日 9:00から17:00

## 鹿島市誕生プレゼント



鹿島市では平成30年1月1日から新生児に誕生プレゼントとして地元産のヒノキを使った木製フォトフレームを贈っており、当組合からは地域貢献の一環として製作費の全額を寄付しています。

なお、令和2年1月～令和2年12月までは新生児177名にプレゼントされました。

## 地域行事への参加

本店地区の鹿島おどりをはじめ、各地区の地域行事や夏祭りに参加しております。また、太良地区においては、「グラウンドゴルフ大会」や「ゲートボール大会」を主催し、地域のみなさまとのふれあいを大切にしております。

## 献血活動への参加

鹿島ライオンズクラブと武雄法人会主催の「献血活動」に積極的に参加しております。

## 「しんくみピーターカード」の推進

Peter Pan Card

しんくみピーターパンカードは、国際カード3種類の中からお好みの1枚をお選びください



(株)オリエント・コーポレーションと提携し、カード利用額の0.5%が金融機関へ交付される「しんくみピーターパンカード」の取扱いを積極的に推進しました。

当組合では令和2年1月1日から令和2年12月31日の1年間で24,108,403円のカード利用がありました。



## 中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組み状況

### ●経営改善支援等の取組み実績

(単位：先数、%)

期初債務者数 (A)				
うち経営改善支援取組み先 (α)				
		αのうち期末に債務者区分がランクアップした先数 (β)	αのうち期末に債務者区分が変化しなかった先 (γ)	αのうち再生計画を策定した先数 (δ)
260	30	2	28	30

経営改善支援取組み率 (α/A)	ランクアップ率 (β/α)	再生計画策定率 (δ/α)
11.5	6.6	100.0

- (注) 1. 本表の「債務者数」、「先数」は、正常先を除く計数です。  
 2. 期初債務者数は令和2年4月当初の債務者数です。  
 3. 債務者数、経営改善支援取組み先数は、取引先企業（個人事業主を含む。）であり、個人ローン、住宅ローンのみの先は含んでおりません。  
 4. 「α（アルファ）のうち期末に債務者区分がランクアップした先数β（ベータ）」は、当期末の債務者区分が期初よりランクアップした先です。なお、経営改善支援取組み先で期中に完済した債務者はαには含まれますがβには含んでおりません。  
 5. 「αのうち期末に債務者区分が変化しなかった先γ（ガンマ）」は、期末の債務者区分が期初と変化しなかった先です。  
 6. 「αのうち再生計画を策定した先数δ（デルタ）」は、αのうち中小企業再生支援協議会の再生計画策定先、RCCの支援決定先、当組合独自の再生計画策定先の合計先数です。  
 7. 期中に新たに取引を開始した取引先は、本表に含まれません。

### 中小企業の経営支援に関する取組み方針

- 当組合に対して事業資金の貸付けに係る債務を有する中小企業のお客様が、お取引先の業績不振による倒産・廃業による影響で、受注減少や売上減少等に陥ったり、住宅資金借入者のお客様が、勤務先の倒産によるご返済が困難となった場合には、貸付条件の変更等のお申込みや経営改善支援のご相談に応じたいです。

### 中小企業の経営支援に関する態勢整備の状況

- 貸付条件の変更等に関するお申込みやご相談及び経営改善等に関する事案は融資管理部が集約し、適否の審査や経営改善努力を行っているお客様に対して、継続的なモニタリングや経営相談、経営指導、及び経営改善支援に努めています。

### 中小企業の新規融資及び経営支援に関する取組み状況

- 地域に根ざした金融機関として、中小企業を中心に必要な資金を提供し、地域経済を活性化する役割を念頭に目利き力やコンサルティング機能の発揮による新規融資、経営改善支援に取り組んでいます。
- 創業・新規事業開拓の支援
  - 令和2年度は保育園開業1先、飲食業・不動産業1先、飲食業（日本料理）1先、宅型有料老人ホーム1先、酒類小売業1先の合計5先について創業支援に取り組みました。
- 経営改善・事業再生・業種転換等の支援
  - 事業再生支援の取組み
    - 令和2年度は中小企業再生支援協議会等との連携により、1先事業再生に取り組んでいます。
  - 経営改善支援の取組み
    - 令和2年度は当組合が独自に選定した30先について、ランクアップを目指した経営改善支援に取り組みました。
  - 保証協会との連携による取組み
    - 令和2年度は10先に取組み、引き続きモニタリングを継続し、経営実態の把握と助言・指導に努めています。

### 経営者保証に関する取組み方針

当組合は、経営者保証の課題に適切に対応するため、経営者保証に関するガイドライン研究会（事務局：全国銀行協会及び日本商工会議所）が公表（平成25年12月5日）した「経営者保証に関するガイドライン」（以下、「GL」という。）を自発的に尊重し、遵守するための態勢整備を通じて、その弊害の解消に努める。

今後、中小企業者等と保証契約を締結する場合、また、当該保証人がGLに則した保証債務の整理を申し立てられた場合には、GLに基づき、誠実に対応し、取引先との継続的かつ良好な信頼関係の構築・強化に努める。

- 経営者保証に依存しない融資の一層の促進について
 

法人個人の一体性の解消等が図られている、あるいは、解消等を図ろうとしている中小企業者等から資金調達の要請を受けた場合には、GLに基づき、当該企業の経営状況、資金使途、回収可能性等を分析し総合的に判断する中で、経営者保証を求めない可能性、代替的な融資手法を活用する可能性について、取引先の意向も踏まえた上で、検討する。
- 経営者保証の契約時の対応について
 

中小企業者等との間で保証契約を締結する場合には、GLに基づき、主たる債務者と保証人に対し、保証契約の必要性等に関する丁寧かつ具体的な説明を行う。

また、保証金額の設定については、中小企業等の各ライフステージにおける取組意欲を阻害しないよう、形式的に保証金額を融資額と同額とはせず、保証人の資産及び収入の状況、融資額、主たる債務者の信用状況、物的担保等の設定状況、主たる債務者及び保証人の適時適切な情報開示姿勢等を総合的に勘案して設定する。
- 既存保証契約の見直しについて
 

中小企業者等から既存保証契約の見直しの申し入れを受けた場合には、GLに基づき、改めて検討を行うとともに、その検討結果を主たる債務者と保証人に対し、丁寧かつ具体的な説明を行う。

(2)保証人から保証債務の整理についてGLに則った整理の申し立てを受けた場合には、GLに基づき、関係する他の金融機関、外部専門家及び外部機関と連携・協力し、当該債務整理手続きの成立に向けて誠実に対応する。
- 保証債務の整理について
 

経営者保証における保証債務を履行する場合には、GLに基づき、保証人の手元に残すことのできる残存資産の範囲について、必要に応じ支援専門家とも連携しつつ、保証人の履行能力、経営者たる保証人の経営責任や信頼性、破産手続における自由財産の考え方との整合性等を総合的に勘案して決定する。

(2)GLによる債務整理を行った保証人については、信用情報登録機関に報告、登録しない。

以上

## 地域の活性化に関する取組み状況

- ・中小企業診断協会の支援制度研究会に参加し、各種支援事業の勉強会と情報交換会を行っています。
- ・平成24年12月に経営革新等支援機関の認定を受け、九州経済産業局主催の定例会に参加し、各種ビジネスモデルや支援事業について情報を収集しており、地域に貢献できるよう体制づくりに努めています。

### ●取引先への支援状況

- ・本部と営業店が一体となって、佐賀県中小企業再生支援協議会、佐賀県信用保証協会、中小企業診断協会、及び商工会・商工会議所等と連携して、事業再生支援、経営改善支援、及び創業・新規事業支援等に取組んでいます。
- ・経営革新等支援機関として、外部専門機関、及び外部専門家との連携を強化し経営改善支援等に取組んでいます。

### ●金融仲介機能のベンチマークに関する開示

#### ■取引先企業の経営改善や成長力の強化

- ・共通ベンチマーク1

金融機関がメインバンク（融資残高1位）として取引を行っている企業のうち、経営指標の改善や就業者数の増加が見られた先数、及び、同先に対する融資額の推移（先数グループベース）

〈令和2年3月31日現在：比較対象期間 直近決算⇄前期決算〉

メイン先数	399先
うち経営指標や就業者数が改善した先	128先

メイン先の融資残高	98億円
メイン先で経営指標や就業者数が改善した先の融資残高	35億円

定義

メイン先数：当組合の融資残高が最も多い先数

経営指標の改善：①売上高、②営業利益率の両方が改善した先をカウント

#### ■取引先企業の抜本的事業再生等による生産性の向上

- ・共通ベンチマーク2

金融機関が貸付条件の変更を行っている中小企業の経営改善の進捗状況（先数グループベース）

〈令和2年3月31日現在〉

中小企業の条件変更に係る 経営改善計画の進捗状況	条件変更 総数	好調先	順調先	不調先
	56先	1先	8先	47先

定義

好調先：計画比120%以上

順調先：計画比80%以上～120%未満

不調先：計画比80%未満

- ・共通ベンチマーク3

金融機関が関与した創業、第二創業の件数（先数グループベース）

〈平成31年4月～令和2年3月までの1年間の実績〉

当組合が関与した創業件数	6先
当組合が関与した第二創業件数	1先

定義

創業：①計画の策定支援、②融資、③政府系機関や支援機関への紹介、④ベンチャー企業への助成、融資、投資等

第二創業：①後継者等が新規事業開始、②譲渡（継承）し新規事業開始、③事業再生で業種を変更し再建等

- ・共通ベンチマーク4

ライフステージ別の与信先数、及び、融資額（先数単体ベース）

〈令和2年3月31日現在〉

	合計	創業期	成長期	安定期	低迷期	再生期
ライフステージ別の与信先数	512先	7先	26先	359先	65先	55先
ライフステージ別の融資残高	138億円	1億円	6億円	99億円	11億円	21億円

定義

創業期：過去5期の内創業、第二創業している先

○成長期、安定期、低迷期は売上高平均で直近2期と過去5期で対比

成長期：120%超

安定期：80%以上～120%未満

低迷期：80%未満

再生期：貸付条件の変更先

## 店舗一覧表 (事務所の名称・所在地)

店名	住所	電話	ATM
本部	〒849-1311 佐賀県鹿島市大字高津原4369番地1	0954-62-9966	
本店営業部	〒849-1311 佐賀県鹿島市大字高津原4369番地1	0954-63-2411	1台
太良支店	〒849-1602 佐賀県藤津郡太良町大字多良1664番地1	0954-67-0062	1台
塩田支店	〒849-1411 佐賀県嬉野市塩田町大字馬場下甲740番地1	0954-66-2028	1台
嬉野支店	〒843-0301 佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙2183番地	0954-43-2133	1台
大浦支店	〒849-1612 佐賀県藤津郡太良町大字大浦丁463番地	0954-68-2316	1台
武雄支店	〒843-0023 佐賀県武雄市武雄町大字昭和19番地7	0954-23-4128	1台
伊万里支店	〒848-0031 佐賀県伊万里市二里町八谷搦1121番地1	0955-23-6538	1台
有明支店	〒849-1203 佐賀県杵島郡白石町大字戸ヶ里1891番地3	0954-65-3001	1台
白石支店	〒849-1112 佐賀県杵島郡白石町大字福田1566番地2	0952-84-3721	1台
有田支店	〒844-0017 佐賀県西松浦郡有田町戸杓丙728番地1	0955-43-3201	1台

## 地区一覧

鹿島市 武雄市 伊万里市  
 嬉野市 太良町 白石町  
 大町町 江北町(大字惣領分を除く)  
 有田町  
 ただし、佐賀県の外郭団体は  
 佐賀県一円

## 索引

各開示項目は、下記のページに記載しております。なお、\*印は、「協同組合による金融事業に関する法律施行規則」「金融再生法」で規定されております法定開示項目です。

■ごあいさつ	2	32.経費の内訳	10	(1) 破綻先債権	
【概況・組織】		33.総資産経常利益率*	10	(2) 延滞債権	
1.事業方針	3	34.総資産当期純利益率*	10	(3) 3か月以上延滞債権	
2.事業の組織*	2	【預金に関する指標】		(4) 貸出条件緩和債権	
3.役員一覧(理事及び監事の氏名・役職名)*	2	35.預金種目別平均残高*	14	62.金融再生法開示債権及び同債権に対する保全額*	17
4.会計監査人の名称*	2	36.預金者別預金残高	14	63.自己資本充実の状況(自己資本比率明細)*	11.12
5.店舗一覧(事務所の名称・所在地)*	32	37.財形貯蓄残高	取扱いなし	64.有価証券、金銭の信託等の評価*	13.14
6.自動機器設置状況	32	38.職員1人当り預金残高	12	65.外貨建資産残高	取扱いなし
7.地区一覧	32	39.1店舗当り預金残高	12	66.オフバランス取引の状況	取扱いなし
8.組合員数	12	40.定期預金種別別残高*	14	67.先物取引の時価情報	取扱いなし
9.子会社の状況	取扱いなし	【貸出金等に関する指標】		68.オプション取引の時価情報	取扱いなし
【主要事業内容】		41.貸出金種別別平均残高*	15	69.貸倒引当金(期末残高・期中増減額)*	15
10.主要な事業の内容*	26	42.担保種類別貸出金残高及び債務保証見返額*	15	70.貸出金償却の額*	15
11.信用組合の代理業者*	取扱いなし	43.貸出金金利区分別残高*	15	71.財務諸表の適正性及び内部監査の有効性について	28
【業務に関する事項】		44.貸出金使途別残高*	16	72.会計監査人による監査*	28
12.事業の概況*	3	45.貸出金業種別残高・構成比*	16	【その他の業務】	
13.経常収益*	12	46.預貸率(期末・期中平均)*	12	73.内国為替取扱実績	26
14.業務純益等*	9	47.消費者ローン・住宅ローン残高	15	74.公共債窓販実績	26
15.経常利益*	12	48.代理貸付残高の内訳	26	75.手数料一覧	27
16.当期純利益*	12	49.職員1人当り貸出金残高	12	【その他】	
17.出資総額、出資総口数*	12	50.1店舗当り貸出金残高	12	76.沿革・歩み	2
18.純資産額*	12	【有価証券に関する指標】		77.総代会について	4
19.総資産額*	12	51.商品有価証券の種類別平均残高*	取扱いなし	78.個人情報保護宣言	18
20.預金積金残高*	12	52.有価証券の種類別平均残高*	15	79.報酬体系について	18
21.貸出金残高*	12	53.有価証券種類別残存期間別残高*	15	【地域貢献に関する事項】	
22.有価証券残高*	12	54.預証率(期末・期中平均)*	12	80.地域に貢献する信用組合の経営姿勢	28
23.単体自己資本比率*	12	【経営管理体制に関する事項】		81.融資を通じた地域貢献	28
24.出資配当金*	12	55.法令等遵守態勢*	5	82.取引先への支援状況等	28
25.職員数*	12	56.反社会的勢力に対する取組み	5	83.地域・業種・職域サービスの充実	28
【主要業務に関する指標】		57.利益相反管理方針	5	84.文化的・社会的貢献に関する活動	29
26.業務粗利益及び業務粗利益率*	9	58.苦情処理措置及び紛争解決措置の内容*	19	85.中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組み状況	30.31
27.資金運用収支、役員取引等収支及びその他の業務収支*	9	59.リスク管理体制*	20.21.22	86.経営者保証に関する取組み方針**	30
28.資金運用勘定・資金調達勘定の平均残高、利息、利回り、資金利鞘*	10	資料編	22.23.24.25	87.金融仲介機能のベンチマークに関する開示*	31
29.受取利息、支払利息の増減*	10	【財産の状況】			
30.役員取引の状況	10	60.貸借対照表、損益計算書、剰余金処分計算書*	6.7.8.9		
31.その他業務収益の内訳	14	61.リスク管理債権及び同債権に対する保全額*	17		


**佐賀西信用組合**

〒849-1311 佐賀県鹿島市大字高津原4369番地1

TEL : 0954-63-2411 FAX : 0954-62-9967

URL : <http://www.saganishi.shinkumi.jp/>